離アル場所ニ於テハ本造建家ヲ用ユルモ妨ナシ

二　調製室製品貯藏室及原料室ハ各之レヲ區劃シ又乾燥室ハ之レヲ別棟トナシ瓦斯ヲシテ他室ニ飛散セシメサル樣戸外ニ之レヲ導クノ裝置ヲ爲スヘシ

三　工場內ハ常ニ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ヲ良クスヘシ

第四條　製造所落成スルモ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ檢査ヲ受ケタル後ニアラサレハ製造ヲ許サス

第五條　製造所ノ主管ハ齒牙又ハ齒龈ニ疾患アル者ヲシテ黃燐若ハ其合劑ノ取扱ヲ爲サシムルヿヲ得ス

第六條　製造所ノ主管ハ何人ヲ問ハス工場內ニ於テ飲食ヲ爲サシムルヿヲ得ス

第七條　合劑中ニハ合劑ノ量百分ニ付黃燐十分以上ヲ含マシム可ラス

第八條　此規則第一條第四條第七條ニ違背セシ者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分ス

○示警甲第三十二號（明治二十九年五月十五日）

吳軍港ニ出入スル船舶ニシテ危害品即チ發火シ易キ性質ノ物品ヲ積載シ正當ノ手續ヲ爲サヽルモノ近來往々有之哉之趣右ハ軍港規則ニ違犯シ相當處分セラルヘキ義ニ付豫ヲ當業者ヘ注意方說諭之上不都合無之樣嚴重取締セラルヘシ

第五欵　電氣

○遞信省令第五號（明治二十九年五月九日）

電氣事業取締規則左ノ通之ヲ定ム

電氣事業取締規則

第一章　總則

第一條　此ノ規則中電氣事業ト稱スルハ電燈、電氣鐵道及其ノ他ノ電力事業

ヲ謂フ但シ私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道ハ之ヲ除ク

第二條　此ノ規則中電線トハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ

第三條　此ノ規則中電路トハ發電機、電線其ノ他ノ器具、大地等電流ノ通過スル一全路ヲ謂フ

第四條　此ノ規則中線路トハ家屋外ニ施設セル電線及其ノ支持物ヲ總稱ス

第五條　此ノ規則中引込線トハ需用者構外ノ支持物ヨリ構外ニ於ケル他ノ支持物ヲ經由セス又ハ需用者構內ヲ通過スル幹線ヨリ需用者ニ電氣ヲ供給スル電線ヲ謂フ

第六條　此ノ規則中低壓トハ直流法ニアリテハ五百ヴォルト〔交流法ニアリテハ二百五十實効ヴォルト〕ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

高壓トハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千ヴォルト〔交流法ニアリテハ三千實効ヴォルト〕ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

特別高壓トハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

第七條　電氣事業ヲ爲サムトスル者ハ營業用タルト自家タルトヲ問ハス其ノ事業ノ種類ニ依リ第二十三條若ハ第七十一條ニ掲クル書類ヲ添ヘ遞信大臣ニ願出許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル後第二十三條若ハ第七十一條ノ各事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類ヲ添ヘ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　電氣事業上特別高壓ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ特種ノ保安置裝ヲ爲スモノニ限リ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條　遞信大臣ハ臨時吏員ヲ派遣シ工事ノ實況ヲ監査セシメ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修又ハ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ起業者ヲシテ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ其ノ試驗ヲ受クシメ又ハ當該官吏ヲシテ現場ニ就キ其ノ試驗ヲ執行セシムルコトアルヘシ若試驗ノ成蹟不完全ナリト認ムルトキハ此カ改修ヲ命シ又ハ其使用ヲ停止スヘシ但シ其ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

第十一條　遞信大臣ハ地方長官(東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ)ヲシテ第九條ノ監査又ハ第十條ノ試驗ヲ爲サシムルコトアルヘシ若地方長官ニ於テ危險急迫ナリト認ムルトキハ其ノ改修又ハ撤去ヲ命シ若ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十二條　起業者ニ於テ其ノ事業ノ一部若ハ全部ヲ賣買又ハ讓渡セムトスルトキハ當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ願出許可ヲ受クベシ

第十三條　起業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其履歴書ヲ添ヘ逓信大臣ニ届出ヘシ爾後之ヲ變更シタル場合ニハ三日以内ニ其ノ履歴書ヲ添ヘ届出ベシ但シ逓信大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十四條　起業者ハ工事ノ全部又ハ一部落成シ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ認可ヲ受ケタル區別ニ隨ヒ逓信大臣又ハ地方長官ニ届出檢査證ヲ受クヘシ其ノ證ヲ受ケザルモノハ使用スルコトヲ得ス

第十五條　起業者ニ於テ此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セザルトキハ逓信大臣ハ電氣ノ使用ヲ停止シ又ハ事業ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第十六條　起業者ハ工事ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ工事ニ着手スベシ若其ノ期限内ニ着手セス又ハ落成期限ヲ過グルモ尚ホ落成セス若ハ檢査証ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ線路ヲ使用セサルトキハ事業ノ許可又ハ工事ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ但シ天災其ノ他正當ノ理由アリト認ムルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第十七條　事業ノ許可若ハ工事ノ認可ヲ取消シタルトキ又ハ廢業ノ場合ニ於テハ地方長官ニ於テ期限ヲ指定シ線路ノ撤去ヲ命スヘシ若起業者之ヲ怠ルトキハ地方長官ニ於テ執行シ起業者ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第十八條　送電ヲ廢止シタル線路ハ地方長官ニ於テ期限ヲ指定シ之ガ撤去ヲ命スルコトアルヘシ若起業者之ヲ怠ルトキハ前條ノ例ニ依リ處分ス

第十九條　左ノ事項ハ三日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

一　事業ノ開始及廢止

二　會社又ハ事務所名稱ノ變更

三　會社又ハ事務所ノ位置及其ノ變更

四　起業者又ハ主任技術者ノ改氏名

五　取締役業務擔當者其ノ他事業管理者ノ氏名若ハ其ノ變更又ハ改氏名

六　送電ノ中止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ

第二十條　此規則ニ據リ逓信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由スヘシ

第二十一條　遞信大臣又ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ第三十六條第六十條第七十九條第八十條第八十二條第八十三條及第九十四條ノ記錄ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第二十二條　此ノ規則中第六十五條第六十八條第六十九條第七十條及第八十五條第一項ノ規定ハ自家用電氣事業ニ適用セス

第二章　電燈及電力

第一節　出願及報告

第二十三條　此ノ規則第七條ニ依リ電燈又ハ電力事業ノ許可ヲ得ムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一　會社又ハ事務所ノ名稱
二　事業ノ目的
三　供給區域
四　發電所及變壓所ノ位置並ニ其ノ位置ヨリ供給區域ニ達スル線路ノ經過地及略圖
五　工事設計（原動機、發電機ノ種類、箇數及馬力數、電氣方式、線路ノ種類、變壓器ノ種類其ノ他必要ナル保安裝置方法ヲ記入スルヲ要ス）

第二十四條　電燈又ハ電力事業ノ許可ヲ得タル者ハ工事施行前左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ調製シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　電柱及埋線ノ敷地使用許可證ノ寫又ハ地主ノ承諾書
二　線路實測圖面（發電所、變壓所、電柱、埋線試驗口及線路ノ位置其ノ近傍ノ町村名、電柱ノ番號、道路ヘノ出幅、其ノ最近地ノ番地、道路ノ幅員、埋線ノ深サ、電信線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置及之ト並行交叉ノ箇所等明瞭ナル凡例ヲ掲ゲ記入スルヲ要ス）
三　落成期限

第二十五條　前條ノ認可ヲ受ケタル發電柱、埋線試驗口及線路ノ位置若ハ埋線ノ深サヲ變更シ又ハ供給區域内ニ於テ線路ヲ延長セムトスルトキハ其ノ都度關係書類ヲ添ヘ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ引込線ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條　引込線ニアラザル電燈線又ハ電力線ヲ增設シ若ハ撤去シタルトキハ三日以内ニ地方長官ニ屆出ヘシ

第二十七條　劇場、紡績工場又ハ化藥、石油其ノ他爆發燃燒シ易キ危險ノ物品ヲ製造シ若ハ貯藏スル場所内ニ電氣ヲ供給セムトスルトキハ起業者、需用

者及擔當技術者連署ノ上其ノ工事方法書ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

工事落成ノ後ハ三箇月毎ニ一回主任技術者ノ試驗成蹟書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十八條　引込線ヲ新設增設又ハ變更撤去シタルトキハ左ノ事項ヲ記シ毎月一回取纏メ地方長官ニ屆出スヘシ

一　需用者ノ住所氏名

二　電燈ノ種類白熱燈弧狀燈ノ別及其ノ箇數

三　電動機ノ箇數及其ノ馬力數

第二節　工事

第二十九條　電路ハ全部大地ヨリ充分絶緣スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ增スコトナク且絶緣物ニ變化ヲ顯ハサザルモノタルヘシ又各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ使用流定量ノ二倍以上ニ達セシムヘカラス

第三十一條　各電路ニハ必要ナル場所ニ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第三十二條　高壓電路ニハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ中止スルニ便ナラシムヘシ

第三十三條　饋電線又ハ幹線ニハ檢漏器ヲ設置スヘシ但シ遞信大臣ニ於テ電路ト大地トヲ接續スルコトヲ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條　各高壓電路ニハ發電所ニ於テ銳敏ナル自働遮斷法ヲ設クヘシ

第三十五條　架空電線ニハ總テ被覆線ヲ用フヘシ但シ高壓電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絶緣物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サハ四厘以上タルヘシ」

堤塘田野等ニ於ケル空架電線ニシテ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得但シ既設ノ電信線電話線其ノ他電氣信號線ト交叉スルトキハ墜落ノ爲電氣的混觸ヲ起サザル樣適當ノ方法ヲ設クヘシ

第三十六條　屋外電路ノ絶緣力ハ一百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ供給電壓ノ每一百「ヴオルト」ニ對シ一里平均一百万「オーム」ヲ下ルヘカラス

前項ノ絶緣力ハ每年一回之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第三十七條　屋外ニ施設スル空架電線ノ切斷面積ハ直徑六厘五毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナルヘカラズ

第三十八條　架空電線ハ道路ノ片側ニアラザレハ其ノ建設ヲ許サズ若電氣

鐵道用架空電線アルトキハ之ト同側ニ建設スヘシ

前項架空電線ハ三十間ヲ超過セザル距離ニ於テ之ヲ支持スヘシ但シ工事上止ムヲ得ザル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條　架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場合ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架渉スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ堤塘田野等危險ノ虞ナシト認ムル場合ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノハ地表上ノ距離ニ限リ本條規定ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四十條　弧狀電燈用ノ架空電線ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ往復線ノ全部若シクハ一部ヲ並行ニ架設セシムルコトアルヘシ

第四十一條　架空ノ電燈線又ハ電力線ト電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ架設スルトキハ及直通電流式白熱電燈線ト電話線並行シテ架設スルトキハ六尺以上離隔セシメ交番電流式電燈線、弧狀電燈線又ハ電力線ト電話線ト並行シテ架設スルトキハ十二尺以上離隔セシムヘシ

但シ電信線電話線其他ノ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルキ及引込線ニシテ工事上止ムヲ得ザルモノニ限リ本條規定ノ距離ニ依ラズシテ架設スルヿヲ得ヘシト雖三尺以内ニ接近セシムヘカラス

第四十二條　他人ニ屬スル架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ施設スル場合ニハ三尺以上離隔スヘシ但シ地方長官ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　架空電線ノ道路ヲ横斷スル所ニ在リテハ電線ト道路トノ交叉角度ハ六十度以上タルヘシ且其ノ場所ニ於ケル電柱相互ノ距離ハ成ルヘク之ヲ短縮スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　電信線、電話線又ハ其他ノ電氣信號線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ施設スルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第四十五條　弧狀電燈ハ炭素粉又ハ玻璃片ノ墜落スルコトナキ樣之ヲ豫防スヘシ

屋外ニ於テ施設セル弧狀電燈ハ地表十尺以上ノ所ニ取附クヘシ

第四十六條　架空電線ノ分岐ハ電柱架渉點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ地方長

官ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條　二箇以上ノ需用者ヘ其同引込線ヲ施設セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ此ノ場合ニ於テ家屋ニ接近シタル所ニハ特ニ善良ナル被覆線ヲ用フヘシ

第四十八條　架空電線以外ノ電線ニシテ他ノ金屬体ト交叉シ若ハ之ニ接近スル所ニ於テハ起業者ハ其ノ電線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起サザル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第四十九條　埋線試驗口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ樣施設スヘシ若瓦斯ノ浸入スルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セザル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第五十條　高壓電線ト低壓電線トハ同一ノ暗渠内ニ納ムルコトヲ許ザス

第五十一條　架空電線以外ノ高壓電線ニシテ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルモノハ完全ナル絶縁方法ヲ施シ且堅牢ナル管若ハ樋内ニ納ムヘシ

第五十二條　電線ヲ納ムル暗渠管若ハ樋等ハ堅牢ニシテ重荷ノ其ノ上ヲ通過スルモ損害ヲ受クルコトナク且成ルヘク瓦斯ハ水ノ浸入スルコトナキ樣構造スヘシ

第五十三條　電線ヲ納メ若ハ之ヲ鎧裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ

第五十四條　開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ

第五十五條　開閉器ハ之ヲ開閉スルニ當リ其ノ把手中間ニ止マリ又ハ弧狀光若ハ熱氣ヲ生スル虞ナキモノタルヘシ且其ノ把手ハ電路ヨリ全ク絶縁スヘシ

第五十六條　室内ニ施設スル電線ハ平常點檢スルニ便利ナル所ニ取附クヘシ若點檢ニ便利ナラサル所ニ取附クルトキハ第五十九條ニ依リ絶縁善良ナル被覆線ヲ用フヘシ

第五十七條　天井及壁等ニ沿フテ電線ヲ取附クル場合ニハ碍子ヲ用ヒ之ヲ施設スヘシ

第五十八條　電線ノ天井、壁及床等ヲ通過スル箇所又ハ屋内ニ於テ電信線、電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル所ニ於テハ碍管内ニ納ムヘシ

第五十九條　第二十七條ニ掲クル場所内ニ施設スル電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テ被覆シタルモノヲ用フヘシ

第六十條　屋内電線ノ絶縁力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

前項ノ絶縁力ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第三節　變壓

第六十一條　變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ

變壓器ハ當業者ノ外容易ニ之ニ觸ルヽコト能ハサル場所ニ設置スヘシ

第六十二條　變壓器ノ内外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ノ方法ヲ設クヘシ

第六十三條　電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附クヘシ石造、煉化造、土藏造及塗家等ノ外部ニ限リ前項ノ例ニ依リ變壓器ヲ取附クルコトヲ得

第四節　供給

第六十四條　需用者ノ家屋内ヘ供給スル電氣ハ總テ低壓タルヘシ但シ特ニ高壓電氣ノ供給ヲ要スルトキハ其ノ理由ヲ記シ需用者ト連署ノ上地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　起業者ハ需用者ノ需メニ應シ供給時間中ハ其ノ契約セル電氣ヲ充分ニ供給シ正當ノ理由ナクシテ送電ヲ中止スルコトヲ得ス

第六十六條　起業者ハ需用者ノ家屋内ヘ送電ヲ開始セムトスル場合ニ於テハ其ノ電路ヲ檢査シ安全ト認ムルニアラサレハ送電スルコトヲ得ス

第六十七條　架空ノ高壓電線ハ一線條ニ付五万[ワット]以上其ノ他ノ場合ニ於テハ二十万[ワット]以上ヲ送電スルコトヲ得ス但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　修繕其ノ他ノ原因ニ因リ幹線中或ル部分ヘ一時間以上送電ヲ中止スル必要アルトキハ避クヘカラサル事變ニ原因スルモノヲ除ク外如何ナル場合ト雖其ノ中止セル電力ハ架空電線ニ於テハ五万[ワット]其ノ他ノ場合ニ於テハ二十萬[ワット]ヲ超過セサル樣豫メ幹線ヲ施設スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項中止ノ原因火急ニ起リタル場合ノ外豫メ關係需用者ニ中止ノ旨ヲ通知スヘシ

第六十九條　幹線中各部分ノ電壓ハ常ニ其ノ百分ノ三以上ノ變動ヲ起サス

且變動ノ爲光力ニ不定ヲ顯ハサヽル樣之ヲ維持スヘシ

第七十條　起業者ハ需用者家屋內ノ線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ障害ノ復舊スル迄電ヲ中止スヘシ此ノ場合ニ於テハ豫告ノ遑ナキトキノ外豫メ其ノ旨需用者ニ通知スヘシ

第三章　電氣鐵道

第一節　出願及報告

第七十一條　此ノ規則第七條ニ依リ電氣鐵道事業ノ爲電氣使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一　會社又ハ事務所ノ名稱

二　事業ノ目的

三　發電所、變壓所ノ位置並ニ其ノ位置ヨリ軌道ニ達スル線路ノ經過地及略圖

四　線路略圖(道路ノ幅員、電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ位置、地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置、他ノ鐵道ト交叉スル所アレハ其ノ位置等ヲモ記入スルヲ要ス)

五　工事設計(原動機發電機ノ種類、箇數及其ノ馬力數、電氣鐵道方式、線路ノ種類及其ノ他必要ナル保安裝置方法ヲ記入スルヲ要ス)

第七十二條　電氣鐵道事業ノ爲電氣使用ノ許可ヲ得タル者ハ工事施行前左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ調製シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　電柱及埋線ノ敷地使用許可証ノ寫又ハ地主ノ承諾書

二　線路實測圖(發電所、變壓所、電柱、埋線試驗口、軌道及線路ノ位置、其ノ近傍ノ町村名、電柱ノ番號、道路ヘノ出幅、其ノ最近地ノ番地、軌道及道路ノ幅員、埋線ノ深サ、電信線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置並ニ之ト並行交叉ノ箇所等明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス)

三　工事設計明細書(發電所內機械器具ノ裝置法、電線架設法、車臺ノ構造法、軌道ノ構造法、軌鐵ノ種類及重量、軌道ノ接續法、埋線構造法、避雷裝置法ヲ明細ニ記入スルヲ要ス)

四　落成期限

第七十三條　前條ノ認可ヲ受ケタル後電柱、埋線試驗口及線路ノ位置又ハ埋線ノ深サヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度關係書類ヲ添ヘ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第七十四條　左ノ事項ハ三日以內ニ地方長官ニ屆出ヘシ

一　饋電線、幹線又ハ絶縁歸線ノ增設又ハ撤去

三　車輛數及其ノ增減

第二節　工事

第七十五條　遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セサルコトアルヘシ

第七十六條　架空電車線ノ太サハ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除ク外ハ徑二分五厘以上ニシテ極メテ强硬ナル線條ヲ用フヘシ

第七十七條　歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以內ニ敷設スル部分及軌鐵ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絶縁スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條　絶縁セサル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺ヲ下ルヘカラス但シ工事上已ムヲ得サルトキハ六尺以內ニ近クコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體ノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二　歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルヽトキハ「レクチフヤイシヨン」電池三箇又金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルヽトキハ一箇ヲ以テ之ヲ反對ニ變シ得ヘキ樣爲スヘシ

三　軌鐵ハ電氣的完全ナル接續ヲ爲スヘシ

四　軌鐵ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ截面積ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五　軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以內ニ敷設シタル絶縁セサル歸線ハ長サ一百尺以下每ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ截面積ノ銅條又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接續スヘシ

第七十九條　前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ノ發電所ヨリ最近及最遠兩點間ニ於ケル電位ノ差及第八十條ニ規定スル接地點ヨリ發電機ニ向フ流ルヽ電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝置ヲ爲シ每日之ヲ記錄シ置クヘシ

第八十條　前條ニ掲クル接地點ハ發電所ノ近傍ニ於テ大地ト二箇所ノ接續ヲナシ其ノ距離十間以上タルヘシ且四〔ヴォルト〕以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地點間ニ二〔アムペーア〕以上ノ電流ヲ發セシムル樣之ヲ施設シ起業者ハ之ヲ確ムル爲少クトモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

前項接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設スヘシ

本條ニ適合セル接地點ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第八十一條　絶縁セル各種電線ノ絶縁力ハ左ノ各項ニ適合セシムヘシ

一　漏洩電流ハ軌道一里ニ對シ二〔アムペーア〕ノ三十分ノ一以上ヲ超過セル樣之ヲ維持シ且其ノ漏洩電流ハ軌道一里毎ニ二〔アムペーア〕ヲ超過シタルトキハ速ニ之ヲ除去スヘシ若二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ

二　地下ニ埋設セル被覆線ニアリテハ其ノ絶縁力ハ一里四百万〔オーム〕ヲ下ルヘカラス

遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

第八十二條　前條第一項漏洩電流ハ毎日一回第二項ノ絶縁力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試驗シ其成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第八十三條　歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ起業者ハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル樣施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第八十四條　架空電線ハ電車線ヲ除ク外總テ道路ノ片側ニアラサレハ其ノ建設ヲ許サス若架空ノ電燈線又ハ電力線アルトキハ之ト同側ニ建設スヘシ但シ地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ道路ノ中央ニ其ノ建設ヲ認可スルコトアルヘシ

電車線ハ二十間其ノ他ノ架空電線ハ三十間ヲ超過セサル距離ニ於テ之ヲ支持スヘシ但シ工事上止ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十五條　電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分テ非常其ノ他線路ニ故障起リタル場合ニ於テ容易ニ電流ヲ遮斷シ得ル樣施設スヘシ但シ遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

電燈電線及幹線ハ各要所

ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ中止スルニ便ナラシムヘシ

第八十六條　架空電線ハ電車線ヲ除ク外總テ被覆線ヲ用フヘシ但シ堤塘田野等ニ架設スルモノニシテ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條　電信線、電話線其ノ他電氣信号線ト並行シテ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル樣離隔スヘシ

第八十八條　架空ノ電車線ト電信線、電話線其ノ他電氣信號線ト交叉シテ敷設スル場合ニ於テハ墜落ノ爲電氣的混觸ヲ起サヽル樣起業者ニ於テ適當ノ方法ヲ設クヘシ

第八十九條　架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ電車線ヲ除ク外地表ヲ距ル廿尺以上其ノ他ノ場合ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架渉スル片ハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ堤塘田野等危險ノ虞ナシト認ムル場所ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノハ地表上ノ距離ニ限リ本條規定ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十條　此ノ規則中第三十條第三十一條第三十三條第三十五條第一項但書第二項但書第四十二條第四十四條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十三條及第六十三條第一項ノ規定ハ電氣鐵道ニモ適用ス

第三節　機械及運轉

第九十一條　電車線ニ使用スル電流ハ直通ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴオルト」以下タルヘシ但シ六百「ヴオルト」以上ノ電壓又ハ交番電流式ヲ使用セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九十二條　電車ニハ總テ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第九十三條　地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ起業者ニ命シ電車ニ避難器、速度制限器、特種ノ緩急器等ヲ裝置セシムルコトアルヘシ

第九十四條　起業者ハ毎日運轉車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記錄シ置クヘシ

第九十五條　絶縁セサル歸線ヲ使用スルトキハ其ノ歸線ハ發電機ノ消極ニ接續スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四章　雜則

第九十六條　起業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ地方長官ニ届出ヘシ

第九十七條　起業者ハ其ノ使用ノ電柱ニ高サ地表上六尺乃至八尺ノ所ニ於テ其ノ起業者名並ニ電柱ノ番號ヲ記スヘシ

第九十八條　高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第九十九條　地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ電路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ

第百條　散宿所ニハ屋外衆人ノ睹易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第百一條　散宿所ノ技術者又ハ工夫ハ其ノ擔當區域ノ電線ニ送電中ハ濫ニ他行スヘカラス

第百二條　散宿所ノ技術者又ハ工夫疾病其ノ他ノ事故ニ因リ業務ヲ執ルコト能ハザルトキハ相當ノ代人ヲ置クヘシ

第百三條　起業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ屆出ヘシ但シ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

第百四條　起業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ送電ヲ止メ又ハ開閉器ヲ開キ電流ヲ遮斷シ且其ノ區域內電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第百五條　出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帶スヘシ

第百六條　前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　罰則

第百七條　此ノ規則第七條ノ許可又ハ第二十四條若ハ第七十二條ノ認可ヲ受ケスシテ工事ニ著手シ又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ十二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第百八條　此ノ規則第十三條第二十五條第二十七條第四十七條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條第二項第七十條第七十三條第八十三條前段第九十一條第九十七條第九十八條第百三條及第百四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十九條第二十六條第二十八條第七十四條及第九十六條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第二十一條ノ記錄ヲ差出サス若ハ第三十六條第六十條第七十九條第八十條第八十二條第八十三條及第九十四條ノ記錄ヲ爲サヽル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第百九條　第百七條第百八條ノ罰則ハ商事會社ニアリテハ其ノ所爲ヲ爲シ

タル業務擔當ノ任アル社員、取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第六章　附則

第百十條　此ノ規則ハ明治二十九年六月一日ヨリ實施ス

第百十一條　既設ノ電氣事業ニシテ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル事項ニ限リ其ノ指定スル期限内之ヲ施設若ハ改造ヲ猶豫スルコトアルヘシ

前項ノ猶豫ヲ受ケムトスル者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ詳細ノ理由ヲ具シ遞信大臣ニ願出ヘシ

○遞信省告示第百十五號（明治二十九年五月二十九日）

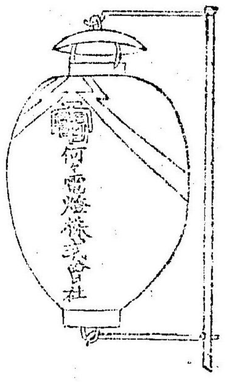
電氣事業取締規則第百四條及私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則第四十五條ニ據リ使用スル標旗ノ制式

地色	白
横	三尺
縦	二尺
標章色	赤
事業者名（會社ハ會社名）ヲ標章ノ下ニ墨書ス	
旗竿長サ	六尺

電氣事業取締規則第百五條及私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則第四十六條ニ據リ使用スル標旗ハ縦一尺五寸横二尺トシ其ノ標竿ハ長サ三尺トシ標章其ノ他ハ前圖ニ準シ調製スヘシ

電氣事業取締規則第百四條及私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則第四十五條ニ據リ使用スル

標燈ノ制式



地色	白
形狀	通常高張
標章色	赤
事業者名（會社ハ會社名）ヲ標章ノ下ニ墨書ス	
燈竿長サ	六尺

電氣事業取締規則第百五條及私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則第四十六條ニ據リ使用スル標燈ハ丸形弓張提燈ノ形狀トシ標章其ノ他ハ前圖ニ準シ調製スヘシ

○遞信省令第八號（明治二十九年五月二十六日）

明治二十年五月勅令第十二號私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則左ノ通之ヲ定ム

私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則

第一條　此ノ規則中電線トハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ

第二條　此ノ規則中電路トハ發電機、電線其他ノ器具大地等電流ノ通過スル一全路ヲ謂フ

第三條　此ノ規則中低壓トハ直流法ニアリテハ五百「ヴオルト」交流法ニアリテハ二百五十實效「ヴオルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

高壓トハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千「ヴオルト」交流法ニアリテハ三千實效「ヴオルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

特別高壓トハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

第四條　電車線ニ使用スル電流ハ直通ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴオルト」以下タルヘシ但シ六百「ヴオルト」以上ノ電壓又ハ交番電流式ヲ使用セムトスルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　特別高壓ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ特種ノ保安裝置ヲ爲スモノニ限リ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條　逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セサルコトアルヘシ

第七條　電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ增スコトナク且絶縁物ニ變化ヲ顯ハササルモノタルヘシ又各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ使用電流定量ノ二倍以上ニ達セシムヘカラス

第八條　架空電車線ノ大サハ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除ク外ハ徑二分五厘以上ニシテ極メテ強硬ナル線條ヲ用フヘシ

第九條　架空電線ハ堤塘田野等ニ架設シ特ニ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノ及電車線ヲ除ク外總テ被覆線ヲ用フヘシ其ノ高壓電線ニアリテハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サハ四厘以上タルヘシ

第十條　各電路ノ必要ナル場所及各電車ニハ總テ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條　饋電線又ハ幹線ニハ檢漏器ヲ設置スヘシ但シ逓信大臣ニ於テ電路ト大地トヲ接續スルコトヲ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　架空電線ハ總テ道路ノ片側ニアラサレハ其ノ建設ヲ許サス若架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ之ト同側ニ建設スヘシ但シ逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ道路ノ中央ニ其ノ建設ヲ認可スルコトアルヘシ

電車線ハ二十間其ノ他ノ架空電線ハ三十間ヲ超過セサル距離ニ於テ之ヲ支持スヘシ但シ工事上止ムヲ得サル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　架空電線ハ道路ヲ横断スル所ニ於テハ電車線ヲ除ク外地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場合ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架渉スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ堤塘田野等危險ノ虞ナシト認ムル場所ニシテ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ地表上ノ距離ニ限リ本條規定ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十四條　電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト並行シテ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル樣離隔スヘシ

第十五條　電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ其ノ前日マテニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第十六條　電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト交叉シテ被覆セサル架空電線ヲ架設スルトキハ墜落ノ爲電氣的混觸ヲ起ササル樣適當ノ方法ヲ設クヘシ

第十七條　他人ニ屬スル架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ架設スル場合ニハ三尺以上離隔スヘシ但シ逓信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設スル部分及軌鐵ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絶縁スヘシ但シ逓信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　絶縁セサル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺ヲ下ルヘカラス但シ工事上已ムヲ得サルトキハ六尺以内ニ近クルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二　歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ「レクランシエ」電池三箇又

金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ一箇ヲ以テ之ヲ反對ニ變シ得ヘキ樣爲スヘシ

三　軌鐵ハ電氣的完全ナル接續ヲ爲スヘシ

四　軌鐵ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ截面積ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五　軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以內ニ敷設シタル絕緣セサル歸線ハ長サ一百尺以下每ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ截面積ノ銅條又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接續スヘシ

六　歸線ハ發電機ノ消極ニ接續スヘシ

第二十條　前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絕緣セサル部分ノ發電所ヨリ最近及最遠兩點間ニ於ケル電位ノ差及第二十一條ニ規定スル接地點ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝置ヲナシ每日之ヲ記錄シ置クヘシ

第二十一條　前條ニ揭クル接地點ハ發電所ノ近傍ニ於テ大地ト二箇所ノ接續ヲナシ其ノ距離十間以上タルヘシ且四「ヴオルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地點間ニ二「アムペーア」以上ノ電流ヲ發セシムル樣之ヲ施設シ起業者ハ之ヲ確ムル爲少クトモ每月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

前項接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設スヘシ

本條ニ適合セル接地點ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第二十二條　絕緣セル各種電線ノ絕緣力ハ左ノ各項ニ適合セシムヘシ

一　漏洩電流ハ軌道一里ニ對シ一「アムペーア」ノ三十分ノ一以上ヲ超過セサル樣之ヲ維持シ且其ノ漏洩電流ハ軌道一里每ニ一「アムペーア」ヲ超過シタルトキハ速ニ之ヲ除去スヘシ若二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ

二　地下ニ埋設スル被覆線ニアリテハ其ノ絕緣力ハ一里四百万「オーム」ヲ下ルヘカラス

遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

第二十三條　前條第一項漏洩電流ハ每日一回第二項ノ絕緣力ハ每月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第二十四條　歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ

起業者ハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル樣施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第二十五條　架空電線以外ノ電線ニシテ他ノ金屬體ト交叉シ若ハ之ニ接近スル所ニ於テハ起業者ハ其ノ電線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第二十六條　埋線試驗口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ樣施設スヘシ若瓦斯ノ浸入スルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セサル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第二十七條　高壓電線ト低壓電線トハ同一ノ暗渠内ニ納ムルコトヲ許サス

第二十八條　架空電線以外ノ高壓電線ニシテ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルモノハ完全ナル絶緣方法ヲ施シ且堅牢ナル管若ハ樋内ニ納ムヘシ

第二十九條　電線ヲ納ムハ暗渠管若ハ樋等ハ堅牢ニシテ重荷ノ其ノ上ヲ通過スルモ損害ヲ受クルヿナク且成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ樣構造スヘシ

第三十條　電線ヲ納メ若ハ之ヲ鎧裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ

第三十一條　開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ

第三十二條　開閉器ハ之ヲ開閉スルニ當リ其ノ把手中間ニ止マリ又ハ弧狀光若ハ熱氣ヲ生スル虞ナキモノタルヘシ且其ノ把手ハ電路ヨリ全ク絶緣スヘシ

第三十三條　變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ

變壓器ハ當業者ノ外容易ニ之ニ觸ルコト能ハサル場所ニ設置スヘシ

第三十四條　變壓器ノ内外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接續ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ノ方法ヲ設クヘシ

第三十五條　電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附クヘシ

第三十六條　起業者ハ其ノ使用ノ電柱ニ高サ地表上六尺乃至八尺ノ所ニ於テ其ノ起業者名並電柱ノ番號ヲ記スヘシ

第三十七條　高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第三十八條　起業者ハ毎日運轉車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記錄シ置クヘシ

第三十九條　起業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添ヘ逓信大臣ニ届出ヘシ爾後之ヲ變更シタル場合ニハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ届出ヘシ但シ逓信大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四十條　逓信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ起業者ヲシテ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ其ノ試驗ヲ受ケシメ又ハ當該官吏ヲシテ現場ニ就キ其ノ試驗ヲ執行セシムルコトアルヘシ若試驗ノ成績不完全ナルトキハ之カ改修ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スヘシ但シ其ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

第四十一條　逓信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及第三十八條ノ記錄ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第四十二條　逓信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ線路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ

第四十三條　散宿所ニハ屋外衆人ノ瞭易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第四十四條　散宿所ノ技術者又ハ工夫ハ其ノ擔當區域ノ電線ニ送電中ハ濫リニ他行スヘカラス若疾病其ノ他ノ事故ニ依リ業務ヲ執ルコト能ハサルトキハ相當ノ代人ヲ置クヘシ

第四十五條　起業者ハ其ノ送電中ノ架空電線近傍ニ出火アルトキハ直ニ送電ヲ止メ又ハ開閉器ヲ開キ電流ヲ遮斷シ且其ノ區域内電路ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第四十六條　起業者ハ送電中ノ架空電線近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出ヘシ但シ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帶スヘシ

第四十七條　前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十八條　起業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ逓信大臣ニ届出ヘシ

第四十九條　左ノ事項ハ三日以内ニ逓信大臣ニ届出ヘシ

一　主任技術者ノ改氏名

二　送電ノ中止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ

三　車輛數及其ノ增減

第五十條　此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由スヘシ

第五十一條　起業者ニ於テ此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ遞信大臣ハ電氣ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五十二條　此ノ規則第四條第二十四條前段第三十六條第三十七條第三十九條第四十五條及第四十六條ノ規定ニ違反シ又ハ第四十八條及第四十九條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第四十一條ノ記錄ヲ差出サス若ハ第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及第三十八條ノ記錄ヲ爲サヽル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

前項ノ罰則ハ其ノ所爲ヲ爲シタル取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第五十三條　此ノ規則ハ明治廿九年六月一日ヨリ實施ス

○通應甲第千八百八十五號(明治二十九年六月三日遞信省通信局長通牒)

明治二十三年八月法律第七十一號軌道條例ニ據リ電氣鐵道ヲ敷設セントスル者ハ內務大臣ノ特許ヲ受ケタル後其特許狀及命令書ノ謄本ヲ添ヘ本年五月遞信省令第五號電氣事業取締規則ニ據リ電氣使用ノ許可ヲ遞信大臣ニ願出テシムル樣出願人ニ御垂示相成度依命此段及御通牒候也

○通應甲第壹千八百八十六號(明治廿九年六月四日遞信省通信局長通牒)

本年五月遞信省令第五號電氣事業取締規則第二十三條第二十四條第七十一條及第七十二條ニ據リ電氣事業出願人ヨリ願書ニ添付シテ差出スヘキ工事設計書、工事設計明細書、線路略圖幷ニ線路實測圖ハ左記ノ凡例ニ據リ調製スヘキ樣出願ノ際出願人ニ御垂示相成度命ニ依リ此段及御通牒候也

第一、電氣事業取締規則第二十三條工事設計書ニ記載スル事項

一、原動機ノ種類個數及馬力

蒸氣力ヲ使用スル場合ニハ蒸氣機械ノ種類、個數、馬力及其ノ發電機トノ接續法、氣罐ノ種類、個數、馬力及汽壓

水力ヲ使用スル場合ニハ一分間ノ流水量及落差、水車ノ種類、個數、馬力及發電機トノ接續法、調整器ノ種類

其ノ他ノ原動機ヲ使用スル場合ニハ上ニ準シ詳細ニ記載スルコトヲ要ス

二、發電機ノ種類、個數及馬力

發電機ノ種類、個數、馬力、電壓、交番ノ度數、附屬器械ノ種類ヲ記載スルコトヲ要ス

三、變壓器ノ種類

變壓器ノ種類、一次二次回線ノ電壓（變壓所內ニ設置スル場合ニハ其ノ個數及配列法ヲモ）記載スルコトヲ要ス

四、電氣方式

高壓、低壓、直通、交番、單相二相三相等ノ區別、二線式三線式其ノ他ノ配電法ヲ記載スルコトヲ要ス

五、線路ノ種類

架空線地下線ノ區別、線條ノ種類等ヲ記載スルコトヲ要ス

六、保安裝置

配電板ノ設計並ニ發電所內外ニ於ケル開閉器、避雷器、安全器、漏電計ノ種類其ノ他保安裝置法ヲ記載スルコトヲ要ス

第二、仝第七十一條工事設計書ニ記載スル事項

一、原動機ノ種類、個數、及馬力

第二十三條工事設計書ニ準シ記載スルコトヲ要ス

二、發電機ノ種類、個數及馬力

第二十三條工事設計書ニ準シ記載スルコトヲ要ス但シ變壓所ヲ置クトキハ變壓器ノ種類、個數及配列法一次二次回線ノ電壓ヲ記載スルコトヲ要ス

三、電氣鐵道方式

單線式複線式架空式暗渠式蓄電池式ノ區別其ノ他配電法ヲ記載スルコトヲ要ス

四、線路ノ種類

架空線、埋線ノ區別線條ノ種類ヲ記載スルコトヲ要ス

五、保安裝置

配電板ノ設計並ニ發電所內外ニ於ケル開閉器、避雷器、安全器、漏電計ノ種類其ノ他ノ保安裝置法、及電信電話其ノ他電氣信號線ト交叉スル箇所ニ於ケル豫防法ヲ記載スルコトヲ要ス

第三、仝第七十一條工事設計明細書ニ記載スル事項

一、發電所內機械器具ノ裝置法

發電所內据附ノ原動機、發電機及附屬ノ各種器械器具ノ裝置法、幷ニ電線接續法ヲ記載スルコトヲ要ス

二、電線架設法

電車線ノ高サ、腕金式、吊線式ノ區別、線路屈曲又ハ交叉スル個所ニ於ケル電線支持法ヲ記載スルコトヲ要ス

三、車台ノ構造

車台ノ大サ、發動機ノ個數馬力、發動機速度調整器、緩急器其ノ他各種備付電氣器械ノ裝置法ヲ記載スルコトヲ要ス

四、軌道ノ構造法、軌鉄ノ種類及重量、軌鉄ノ接續法、埋線構造法、避雷法各事項ニ就キ詳密明了ニ記載スルコトヲ要ス

以上各項中圖解ヲ必要トスルモノハ各其略圖ヲ添附スヘシ

第四、同第七十一條線路略圖ノ調製方

電信線電話線其ノ他電氣信號線ハ線路ノ位置ヨリ凡ソ一町以內ノ區域ニ在ルモノヲ記載シ地下埋設ノ金屬線金屬管其ノ他金屬體ハ軌道ノ位置ヨリ凡ソ二町以內ノ區域ニ在ルモノヲ記載スルコトヲ要ス但レ歸線トシテ大地ヲ使用セサル場合ニハ金屬管、金屬線其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載スルコトヲ要セス

軌道ノ他ノ鉄道ト交叉スル處ハ該鐵道ノ前後二町以內ニ在ル部分ヲ記載スルコトヲ要ス

此ノ他ノ事項ハ凡ソ明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルコトヲ要ス

第五、同第二十四條及第七十二條線路實測圖面ノ調製方

線路ヲ市街地ニノミ施設スル場合ニハ縮尺二千分ノ一トシ線路ヲ市街地外ニ亘リ施設スル場合ニハ縮尺二万分ノ一トシ其ノ市街地ノ部分ニ就キ別ニ縮尺二千分ノ一ノ圖面ヲ添付スルコトヲ要ス

電信線電話線其ノ他電氣信號線ハ線路ノ位置ヨリ凡ソ一町以內ノ區域ニ在ルモノヲ記載シ其ノ他ノ事項ハ執レモ明了ナル凡例ヲ掲ケ記載スルコトヲ要ス

○通庶甲第五千〇七十九號（明治二十九年十月六日 遞信省通信局長通牒）

電氣事業取締規則ニ據リ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル電氣工事落成シ之ヲ使用セントスル場合ニハ仝規則第十四條ニ據リ遞信大臣ニ屆出檢査ヲ受クヘキ義ニ有之候處僅カニ一少部分ノ工事竣成ヲ告クル每ニ本省ヨリ吏員ヲ派遣シ之カ檢査ヲ爲サシムルガ如キハ事實行ハレ難キ義ニ有之候ニ付工事ヲ

數回ニ分劃シテ檢査ヲ受ケムトスルモノハ工事施行認可願書ヲ提出スルニ方リ豫メ其工事ヲ適當ノ段階ニ分チ各部分毎ニ落成期日ヲ定メテ出願セシメ其各部分落成毎ニ檢査スヘキ事ニ裁定相成候ニ付爾今工事施行願書提出ノ場合ニハ右ノ趣旨出願人ニ御垂示相成度尚ホ既ニ認可セラレタル工事ニシテ未落成ノ部分ニ就テハ前記ノ趣旨ニ基キ相當ノ段階ヲ附シ落成期限ヲ定メ認可ヲ請ハシメ候樣各事業者ニ可然御垂示相成度命ニ依リ此段及御通牒候也

○通庶甲第五千〇七十七號（明治二十九年十月六日 遞信省通信局長通牒）

電氣事業取締規則第二十三條若クハ第七十一條ノ各事項ヲ變更セントスルトキハ關係書類ヲ添ヘ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘキ旨仝規則第七條第二項ヲ以テ規定相成居候處其變更事項ノ工事ニ關スルモノナルトキハ變更認可ノ出願ト同時ニ第廿四條若クハ第七十二條ノ關係事項ヲ記載セル書類ヲ具備シ工事施行認可ヲ出願セシメ支障無之又若シ單ニ變更認可ノ出願ヲ爲ストキハ第二十四條若クハ第七十二條ニ準シ工事施行前遞信大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトニ裁定相成候ニ付各事業者ニ對シ可然御垂示相成度命ニ依リ此段及御通牒候也

○通庶甲第五千二百七十號（明治二十九年十月十日 遞信省通信局長通牒）

電氣事業取締規則ニ據リ水力電氣事業ノ許可ヲ出願スル者ハ先ツ其水利使用ニ關スル許可ヲ受ケタル後其許可書類ノ謄本ヲ添ヘ願書ヲ提出セシムルコトニ御裁定相成リ候ニ付出願人ニ御垂示相成度又既ニ御進達ニ係ル水力電氣事業許可願書ニ就テハ水利使用ノ許可ヲ受ケシメ其書類ノ謄本ヲ差出サシメタル後處理可致候條右之趣旨出願人ニ御通達相成度命ニ依リ此段及御通牒候也

第六欵　蒸滊機關

○縣令第四十九號（明治二十八年九月二十七日）

蒸滊機關取締規則

第一條　營業用ニ供スル蒸滊機關ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項及其場所ノ構造仕樣書幷ニ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

但本條ノ事項其他構造ヲ變換セントスルトキ亦同シ

一　滊罐

滊罐ノ種類個數及其圖面

滊罐ノ寸法

罐板ノ種類及厚サ

常用滊壓

傳熱ノ面積

爐格ノ面積

安全瓣ノ個數寸法及其圖面

燃料ノ種類及其消費高

二　滊機

滊機ノ種類及其圖面

滊筒ノ寸法

衝程

回轉數

實馬力

三　事業ノ種類

四　敷地ノ位置坪數及近傍人家ノ距離幷ニ四圍詳細ノ圖面

五　機關設置場所幷ニ烟突ノ位置構造及其圖面

六　烟突ノ口徑及其高サ

七　工事落成期日

第二條　前條ノ許可ヲ得タル後其構造等落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ屆出檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ

蒸滊機關ノ定着ニ係ルモノハ据付ケ前其可搬ニ係ルモノハ使用前前項ノ手續キニ依リ檢査證ヲ受クルニアラサレハ之レヲ据付又ハ使用スルコトヲ得ス

第三條　工事落成期日ノ翌日ヨリ起算シテ三ケ月以内ニ竣工セサルトキハ免許ノ効ヲ失フモノトス

第四條　左ノ事項ノ一ニ該ルモノハ五日以内ニ所轄警察署分署ヲ經テ縣廳ニ届出第一項第二項ノ場合ハ檢査證ヲ返納シ第三項ノ場合ハ檢査證ノ再渡ヲ請フベシ但第二項ノ場合ニシテ現在ノ儘使用ノ爲メ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキハ買受人又ハ讓受人連署ノ上更ニ檢査證ノ下附ヲ請フヘシ

一　機關ヲ撤去シ又ハ廢棄シタルトキ

二　機關ヲ賣渡シ又ハ讓リ渡シタルトキ

三　轉居改氏名又ハ檢査證ヲ遺失毀損シ其他檢査證ニ異動ヲ生シタルトキ

第五條　機關及工場建物等ノ毀損ニ係リ又ハ煤烟騷響其他ノ理由ニ依リ危險若クハ妨害ノ虞アリト認ムルトキハ除害ノ裝置ヲ命シ若クハ其使用ヲ停止シ檢査證ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第六條　營業者ハ事業上相當ノ學識經驗アル機關手ヲ置キ開業前其履歴書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ機關手ヲ變換シタルトキハ五日以内ニ本文ノ手續キニ依リ届出ヘシ

第七條　發火若クハ爆發シ易キ物品ヲ工場内ニ置クトキハ其危害ヲ防クニ適當ナル貯藏所ヲ設クヘシ

前項ノ貯藏所ニシテ不適當ト認ムルトキハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　機關及烟突等ハ毎月一回以上掃除シ危險ノ虞ナキ樣注意スベシ

第九條　工場ニハ臨時掛官吏ヲ派遣シ機關並ニ建物及烟突等ヲ檢査シ必要ト認ムルトキハ水壓試驗ヲ行ヒ又ハ鏈板ニ孔ヲ穿チ其厚サヲ檢査セシムルコトアルヘシ

本條ノ檢査ニ要スル費用ハ營業者ノ負擔タルヘシ

第十條　前條臨檢ノ際ハ營業者及機關手之レカ立會ヲ爲スヘシ

第十一條　營業者ハ正當ノ理由ナクシテ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス又學業上ノ事項ニ付キ尋問アルトキハ其説明ヲ爲スヘシ

本條ニ違背シタルモノハ機關ノ使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條　本則第一條第二條第四條第六條第七條第一項中第十條ニ違背シ又ハ第八條ニ違背シテ官ノ督促ニ從ハサル者又ハ第五條第七條第二項第十一條第二項ノ命令ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第七款　帶刀

○布告第三十八號（明治九年三月二十八日）

自今大禮服着用幷ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

○教部省達甲第五號（明治九年七月廿日）

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者共從前甲冑又ハ大紋素袍等着用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋ヘ屆出候儀ト可心得此旨相達候事

○乙第百二十號（明治九年九月二十六日本縣達）

帶刀禁示之儀本年第卅八號ヲ以テ公布相成候處諸神社神輿渡御ノ節從前甲冑又ハ大紋素袍等着用ニテ帶刀致來候向ハ供奉中限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤其都度該大區巡査屯所ヘ可屆出此旨相達候事

但神官職務ヲ以テ供奉スル者ハ帶刀不相成候義勿論ノ事

○內務省達乙第二十一號（明治十一年三月四日）

諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀ノ儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以テ神宮並ニ官國幣社ヘ相達置候趣候處右ハ府縣社以下モ同樣專ラ古代ノ裝飾ニ擬倣シ神輿ニ供奉致シ來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤モ其都度其筋ヘ可爲屆出儀ト可心得此旨相達候事

但普通祭服着用之者帶刀不相成ハ勿論タルヘシ

○無號（明治二十年三月廿四日內務書記官通牒）

府縣立學校生徒步兵操練ノ節司令役ノ者帶劒ノ件別紙ノ通閣議決定相成候條此段及通牒候也

（別紙）

文部省ヨリ内閣ヘ請議（明治二十年二月廿三日）

爲東京師範學校生徒歩兵操練ノ節帶劍ノ儀ニ付去十八年十二月三日稟議ヲ經タル儀モ有之候處尚又當省所轄學校及府縣立學校ニ於テ兵式躰操實施ニ付テハ前稟議ニ於テ陳ヘタルト同ク號令禮式等一ニ歩兵式ニ則ルハ訓練上頗ル必要ノ儀ニ有之就テハ當省所轄高等師範學校男子師範學科卒業生同躰操修業員ノ課程ニ履修シタル者同躰操專修科卒業ノモノ若クハ陸軍歩兵下士以上ノ資格ヲ有スルモノヽ教員トナリ施行スル行軍演習及日常訓練ニシテ陸軍士官之ヲ管理スル場合ニ於テハ右教員ハ勿論前諸學校生徒ニシテ司令役ノ位置ニ立ツモノハ其時々限リ軍隊ノ規典ニ準ヒ總テ「サーベル」定例アルモノト其形ヲ携帶使用セシメ可然哉此段至急閣議ヲ請ヒ候也

追テ躰操修業員ノ課程ヲ履修シタルモノ及躰操專修科卒業ノモノハ總テ陸軍歩兵下士若クハ陸軍歩兵上等兵ニシテ常備現役ヲ離レ一ヶ年以内ノ者又ハ右ノ期限ヲ超過スルモ從軍ノ實歴アル者ヨリ撰拔修業セシ者ニシテ教員トナリ不都合無之者ニ候也

内閣指令（明治廿年三月七日）

請議之通

第四章　狩獵漁業

第一欵　狩獵

○法律第二十號（明治廿八年三月二十日）

狩獵法

第一章　獵具獵法

第一條　此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、繩又ハ簇ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條　爆發物、据銃若ハ危險ナル罠及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコヲ得ス」

前項ノ外ノ獵具獵法ニ關シテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官東京府下ハ警視總監以下倣之ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條　日出前、日沒後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　御獵場

二　禁獵制札アル場所

三　公道

四　公園

五　社寺境內

六　墓地

七　柵、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章　狩獵免許

第六條　狩獵ヲ爲サムト欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ柵、柵、圍障アル所有地內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域內ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條　免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條　免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等　（所得稅十五圓以上若ハ地租二百圓以上納ムル者）（甲種　金五圓　乙種　金十圓）

二等　（所得税三圓以上若ハ地租四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族）　（甲種）金一圓五十錢　（乙種）金三圓

三等　二等二等以外ノ者　（甲種）金五十錢　（乙種）金一圓

第十條　甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條　免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條　獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ屆出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手數料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條　十六歳未滿ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條　遊歩規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免許税ヲ納メ其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス

第三章　鳥獸保護

第十七條　保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條　捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條　捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章　罰則

第二十條　第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十二條　第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條　第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條　狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノトス

第二十五條　此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコトヲ得

○農商務省令第四號（明治二十八年三月二十七日）

狩獵法施行細則

第一條　狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ燕網、投網、霞網其他ノ張網トシ網繩ハ流シ網、張網繩トシ又簾ハ高簾、千本簾トス

第二條　銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條　狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齡ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

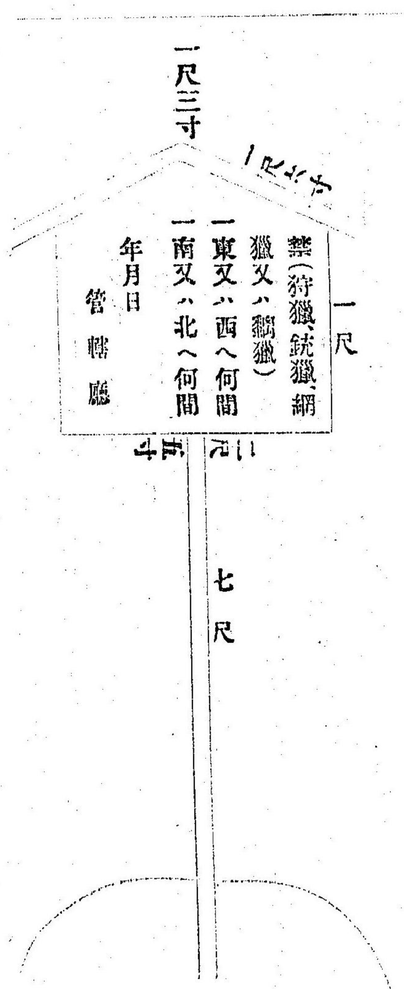
第四條　狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條　狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ又其移轉ノ地他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ屆出ツヘシ

第六條　禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條　地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ



第八條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

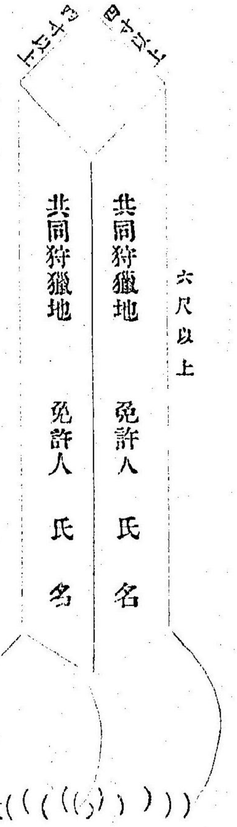
第九條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條　共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル地圖ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ屆出スヘシ

第十一條　共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雛形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ屆出ツヘシ



六尺以上

第十二條　公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルトキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條　第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條　左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

一鶴　一燕岩燕ヲ除ク）　一小雀　一日雀　一四十雀　一五十雀　一柄長

一鷦鷯　一杜鵑　一郭公　一三光鳥

第十五條　左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一雉　一鶺雉

第十六條　左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一鶴鴿　一椋鳥　一鶏　一雲雀　一鵯　一鳴　一小啄木　一雷鳥

一松鶏　一鳩（鴿ヲ除ク）

第十七條　牝鹿ハ十一月一日ヨリ七月十五日マテ牡鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條　北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條　營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十條　保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

○農商務省告示第五號（明治廿八年四月二日）

本年法律第二十號狩獵法第六條狩獵免狀ノ雛形及本年當省令第四號狩獵法施行細則第八條第十條共同狩獵地出願書式及圖面ノ雛形左ノ通相定ム

一等免狀雛形　紙地白色

表

狩獵免狀

甲(乙)種一等

番號	本籍	住所	職業	氏名	年齡
第　號					

狩獵免
農商務省
許之證

明治　年　月　日

分八寸四

五寸五分

花紋赤

裏

分八寸四

狩獵法摘要

五寸五分

二等免狩雛形　紙地綠色

表

川下ヘ向

五寸五分

狩猟免許之證

農商務省

狩猟免状

第二類(乙)甲

年齢	氏名	職業	住所	本籍	番號
					第　　號

明治　年　月　日

裏

川下ヘ向

五寸五分

要	摘	法	猟	狩

三等免狀雛形　紙地淺紅色

五寸五分

花紋黑

表

狩獵免狀

甲(乙)種三等

番號	本籍	住所	職業	氏名	年齡
第　號					

明治　年　月　日

狩獵免
農商務省
許之證

裏

狩獵法摘要

五寸五分

第一號書式（用紙美濃紙）

共同狩獵地免許願

本籍
現住所
職業
何　某　年齡

何府縣何郡何市何町何村大字何　何町歩
小字何全地　何町歩
但官地何々
民地何々
小字何ノ内　何町歩
但官地何々　何町歩
民地何々

合計　何町歩

右ノ箇所從來ノ慣行ニ依リ共同狩獵地ト致度ニ付御許可ノ日ヨリ向フ何年間免許相成度明治廿八年法律第二拾號狩獵法第七條及同年御省令第四號狩獵法施行細則第八條ニ據リ別紙狩獵ノ慣行調及圖面相添此段相願候也

年　月　日

何　某㊞

前書ノ通相違無之ニ付證明ス

（現住所）
何市町村長
何　某㊞

年　月　日

（共同狩獵免許地）
何市町村長
何　某㊞

農商務大臣宛

第二號書式（用紙美濃紙）

共同狩獵地變更願

本籍
現住所
職業
何　某

何府縣何國何郡何市何町村　　合計何町歩　　年齢

右從前許可ノ分

何府縣何國何郡何市何町村大字何

小字何全地　　何町歩

但官地何々　民地何々　　何町歩

小字何ノ内　　何町歩

但官地何々　民地何々　　何町歩

合計　　何町歩

右今回增加(減)ノ分

總計　　何町歩

明治何年農第何號ヲ以テ共同狩獵地免許相成候處更ニ接續地何町歩ヲ加ヘ(前共同狩獵地何町歩ヲ減シ)其區域變更致度ニ付御許可相成度明治二十八年法律第二十號狩獵法第七條及同年御省令第四號狩獵法施行細則第十條ニ據リ別紙圖面添此段相願候也

年　月　日　　何　某印

前書ノ通相違無之ニ付證明ス

年　月　日

(現住所)

何市町村長

何　某印

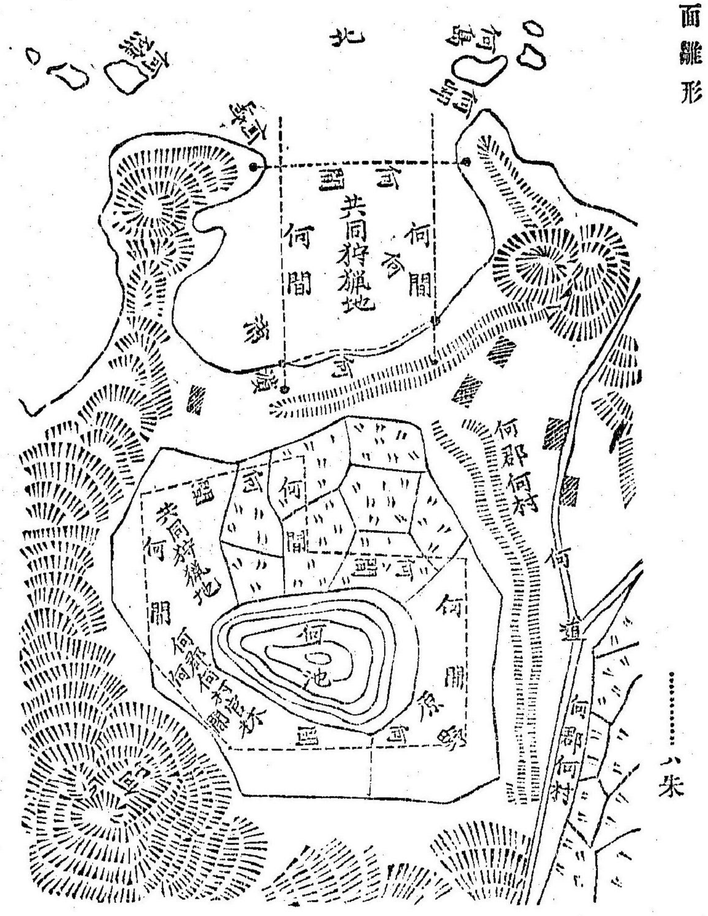
(共同狩獵免許地)

何市町村長

何　某印

農商務大臣宛

圖面雛形


何郡何村
何道
何郡何村
何池
何間
何郡何村
共同狩獵地
何間
何郡何村
何郡何村
何郡何村

豫メ其捕獲スヘキ鳥獸ノ種類員數及捕獲期限ヲ定ムヘシ

同條第二項ニ據リ有害鳥獸ノ驅除ヲ出願スル者アルトキハ被害ノ狀況ヲ調査シ必要ト認メタル場合ニ限リ驅除期限及區域ヲ定メ之ヲ許可スヘシ」

本條第一項ノ捕獲許可ノ期限ハ三週日以內トス

第二條　第一條ニ據リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ許可スルトキハ期限ヲ定メ其鳥獸ノ名稱及員數ヲ報告セシムヘシ

前項ノ報告ハ每月十五日マテニ前月分ヲ取纏メ第一號表第二號表ノ區別ニ從ヒ本大臣ニ差出スヘシ

第三條　免狀ハ每年使用高ヲ概算シ其年七月三十一日限リ本大臣ニ請求スヘシ

第四條　免狀原簿ヲ備置キ免狀下付ノ際之ニ其番號獵者ノ住所族籍職業氏名及年齡ヲ登錄スヘシ

第五條　免狀ニハ獵者ノ住所族籍職業氏名及年齡ヲ記入シ廳印ヲ押捺スヘシ

第六條　免狀ヲ亡失シタル者アルトキハ其種類番號及亡失者ノ住所族籍職業氏名及年齡ヲ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第七條　獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ及概算ヲ以テ領收シタル免狀ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ斷裁スヘシ

第八條　免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ每年甲種ハ十二月十五日マテ乙種ハ五月十五日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

第一號表式

鳥獸捕獲表　自明治何年何月何日至同年何月何日　廳府縣名

鳥獸名	雌	雄	牝	牡	計	郡	村	氏	名

二號表式

第三號表式

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表　　廳府縣名

種目	一等	二等	三等	計
免狀受取高				
免狀下付高				
免許稅				
免狀再渡高				
免狀再渡手數料				
狩獵禁止地名	新設地名何々 解除地名何々			

備考

○農商務省訓令第七號(明治二十八年四月二十二日)　大林區署

所轄官林內ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムル場合ハ本年法律第廿號狩獵法第十九條第二項及本年當省訓令第四號狩獵法取扱手續第一條第二項ニ準據シ地方廳ノ承認ヲ得タル上部下ノ吏員ヲシテ驅除法實施セシメ其驅除シタル鳥獸ノ名稱及員數ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ地方廳ニ報告スル儀ト心得ヲ可シ

○縣令第二十二號(明治二十八年五月十四日)

狩獵法ニ關スル願屆手續

第一條　狩獵法ニ關スル願屆ハ總テ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第二條　狩獵免狀下附ノ願書ニハ狩獵法第九條ノ納稅等級ノ證明ヲ納稅地ノ市町村長ヨリ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第三條　狩獵法第十三條第二項及施行細則第五條ノ願屆書ハ當初狩獵免狀ヲ下附シタル警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第四條　禁獵制札ノ建設願書ニハ禁獵ヲ要スル場所ノ面積建札ノ位置並各制札ノ方位距離ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第五條　前條ノ許可ヲ受ケタルモノハ施行細則第七條ノ雛形ニ依リ制札ヲ

調製シ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ禁條文ノ記載ヲ請フヘシ其朽廃ニ係リ再設ヲ要スルトキ亦同シ

第六條　施行細則第九條ニ依リ縣廳ノ管轄ニ属スル官有森林原野水面等ノ使用許可ヲ受ケントスルモノハ其願書ヲ作リ圖面ヲ添ヘ市町村役場ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第七條　學術研究其他特別ノ理由ニ依リ鳥獸ノ捕獲ヲ要スルトキ又ハ有害鳥獸驅除ノ必要アルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ願出テ許可ヲ受クヘシ但捕獲ニ關スル期限ハ三週間以内トス

一　住所族籍職業氏名年齢

二　捕獲又ハ驅除ヲ要スル理由並其方法

三　鳥獸ノ種類捕獲ニ付テハ尚其員數

四　捕獲又ハ驅除ヲ要スル期限

五　有害鳥獸ノ驅除ニ在テハ前各項ノ外被害ノ狀況及驅除ヲ要スル場所ノ圖面

第八條　前條ノ許可ヲ受ケ捕獲又ハ驅除セシトキハ其種類(雌雄牝牡ノ區別トモ)員數ヲ明記シ毎月五日限リ前月分ヲ取纏メ屆出ヘシ

許可ヲ受ケタル後捕獲又ハ驅除スル事能ハサリシトキモ亦前項ノ例ニヨリ其旨屆出ヘシ

○示警甲第四號(明治廿八年五月十四日)

狩獵法取扱手續

第一條　狩獵免狀ノ下付願ヲ受理シタルトキハ規則ニ照査シ制規ニ抵觸セサルモノニハ免狀ヲ下付スヘシ

第二條　免狀下付ノ際ニハ原簿(第一號)ニ免狀ノ種類、番號、獵者ノ住所、族籍、職業、氏名、年齢及收稅署ニ通知シタル年月日等ヲ登錄シ爾後免狀ノ亡失再渡書換又ハ獵者ノ族籍氏名ノ變換住所移轉稅金額其他ノ事故ヲ備考欄ニ遺漏ナク其時々登錄スヘシ

第三條　免狀ヲ下付シタルトキハ免狀ノ番號免狀ヲ受ケシモノヽ住所氏名免狀ノ種類免許稅ノ等級稅金額免狀下付ノ年月日ヲ記シ速ニ本人所轄ノ收稅署ニ通知スヘシ(第二號書式)

第四條　免狀ニハ其欄内ヘ獵者ノ住所族籍職業氏名及年齢ヲ記入シ署印ヲ以テ免狀原簿ト割印スヘシ

第五條　免狀亡失屆ヲ受ケタルトキハ亡失ノ顛末ヲ原簿備考欄内ニ記入シ

亡失ノ理由及免狀ノ種類番號獵者ノ住所族籍職業氏名年齡ヲ警察部ニ報告スヘシ

第六條　禁獵制札建設願ヲ受ケタルトキハ其事情ヲ調査シテ之ヲ許可シ其制札ヲ差出シタルトキハ施行細則第七條ノ雛形ニ適スルヤ否ヲ檢査シ例文及管轄廳トアルヲ山口縣ト記入ノ上渡スヘシ

第七條　施行細則第八條第十條ノ願屆ヲ受ケタルトキハ速ニ其事實ヲ調査シ許否ノ意見ヲ付シ警察部ニ進達スヘシ

第八條　狩獵法ニ關スル願屆手續第七條ニ依リ保護鳥獸ノ捕獲又ハ有害鳥獸ノ驅除願ヲ受ケタルトキハ其理由及被害ノ狀況等ヲ調査シ必要ト認メタル場合ニハ捕獲ニ付テハ其鳥獸ノ種類員數及捕獲スヘキ期限ヲ定メ驅除ニ付テハ其期限及區域ヲ定メタル意見ヲ具シ願書進達スヘシ

但捕獲許可ノ期限ハ三週日ヲ超ユヘカラス

願書不當ト認メタルトキハ其理由ヲ具シ願書進達スヘシ

第九條　狩獵法ニ關スル願屆手續第七條ノ捕獲又ハ驅除シタル鳥獸ノ種類員數屆ヲ受ケタルトキハ前月分ヲ取纏第三號表第四號表ノ區別ニ從ヒ毎月五日マテニ警察部ニ報告スヘシ其事項ナキトキハ其旨報告スヘシ

第十條　免狀統計表ハ第五號表式ニ據リ調製シ毎年甲種ハ十一月十五日マテニ乙種ハ四月十五日マテニ警察部ニ報告スヘシ

第十一條　免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年七月十五日限リ警察部ニ請求スヘシ

第一號　狩獵免狀原簿雛形

氏名	免狀番號	免狀種類	免狀渡月日	族籍	職業	備考
	再渡免狀番號	免狀再渡月日	住所	年齡	收稅署ヘ通知セシ月日	

第二號書式

狩獵免狀下付通知書

住所	氏名	免許稅等級	免狀番號	免狀下付年月日

免狀種類

稅金額

右之通免狀下付候條此段及御通知候也

明治　年　月　日

何收稅署御中

何警察(分)署

第三號表式（用表半紙）

鳥獸捕獲表　自明治何年何月何日至同何年何月何日　何警察(分)署

鳥獸名	雌	雄	牝	牡	計	郡村氏名

種目							
免狀受取高							
免狀下付高							
免許稅							
免狀再渡高							
免狀再渡手數料							
狩獵禁止地名	新設地名何々 解除地名何々						

○示警甲第二十四號（明治廿八年十月十九日）

本年五月示警甲第四號第三條狩獵免狀下付ノ場合所轄收稅署ヘノ通知書ハ免狀下付ト同時ニ該通知書ヲ緘封ノ上便宜本人ヲシテ直チニ傳達候樣取計ハルベシ

○示警甲第九號（明治廿九年二月五日）

狩獵免許稅ノ件ニ付今般訓甲第五號ヲ以テ別紙寫ノ通市町村役場ヘ訓令相成候ニ付テハ爾今所得納稅者ニシテ狩獵免狀ノ下付ヲ願出タルトキハ該訓令ノ主旨ニ依リ相當ノ免狀ヲ交付スル義ト心得ラルヘシ

訓甲第五號（明治廿九年二月四日）　郡市役所　收稅署　町村役場

所得稅參圓以上ヲ納ムル者ニシテ狩獵ヲ爲サントスルトキハ明治二十八年三月法律第二十號狩獵法第九條ニ依リ其稅額ニ應シ一等若クハ二等ノ免狀ヲ受クヘキ筈ニ有之候處明治二十年三月勅令第五號所得稅法第一條但書ノ場合ニ於テハ其合算シタル所得ニ對シ戶主ニ課稅スルニアラスシテ單ニ戶主ヲ以テ納稅者ト視ルニ過キサレハ其家族モ亦所得相應ノ納稅者ナリトス就テハ爾今右等ノ者ニシテ明治廿八年五月縣令第二十二號狩獵法ニ關スル願屆手續キ第二條ニ依リ納稅等級ノ證明ヲ請求スルトキハ其市町村長ハ各自ノ所得稅額ニ照ラシテ證明スル儀ト心得ヘシ

但從前ノ指令達示等ニシテ此訓令ニ抵觸スルモノハ總テ取消ス

○法律第十號（明治廿八年三月二日）

臘虎臘鼬獸獵法

第一條　臘虎臘鼬獸ヲ獵獲セントスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　臘虎臘鼬獸保護ノ爲メ勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵船、獵具、獵法ヲ制限シ牝牡、年齡ニ依リ其獵獲ヲ禁止スルヿヲ得

第三條　軍艦艦長、警察官吏、稅關官吏其他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ

定ムル所ロニ依リ臘虎膃肭獸獵船、獵具及ヒ獵獲物ノ檢査ヲ行ヒ犯則者ト認ムベキモノ及船員ヲ抑留シ獵船、船具、獵具、船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

第四條　禁獵區內又ハ禁獵期間ニ於テ臘虎膃肭獸ノ獵獲ヲ爲シタルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船、船具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條　獵船、獵具、獵法ノ制限及ヒ牝牡、年齡ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船、獵具及獵獲物ノ檢査ニ關スル規程ニ違背シタルモノハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　第一條ノ免狀ヲ受ケスシテ臘虎膃肭獸ヲ獵獲シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條　第四條、第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其代價ヲ追徵ス

第八條　此法律ハ明治廿九年一月一日ヨリ執行ス

明治十七年第十六號布告及ヒ明治十九年勅令第八十號ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○農商務省令第十二號（明治廿八年十二月六日）

臘虎膃肭獸獵免許規則

第一條　臘虎若クハ膃肭獸ヲ獵獲セントスル者ハ其住居地又ハ獵船定繫場管轄ノ地方長官（東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ）ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二條　前條獵業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但地先沿岸ニ於テ獵銃ヲ使用セス臘虎若クハ膃肭獸ノ獵獲ヲナス者ハ第三ノ事項ヲ記載スルヲ要セス

一　獵業ノ種類

二　本籍及住所身分

三　獵船ノ數及其船名噸數

四　獵船定繫場

五　獵期及獵場

六　獵具獵法

第三條　獵業ヲ免許シタルトキハ左ノ雛形ニ依リ各獵船ニ免許證ヲ下付ス

（水色紙）

五寸五分

表

第壹號

印

獵虎（膃肭獸）獵業免許證

番號	本籍及分	住所	氏名	船名又ハ種類	獵船繫場定
第					
號					

明治　年　月　日

農商務省

花紋

第四條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ出港地管轄警察本分署ニ届出ヲ獵期ノ終了ニ際シ獵艙定繫場若クハ寄港地管轄ノ警察本分署ニ

裏

獵業從事之檢閲											
警察署檢印											
檢閲ヲ受ケタル年月日											
警察署檢印											
檢閲ヲ受ケタル年月日											
備考											

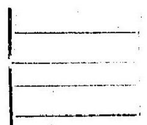
獵業免許證ヲ差出シ檢印ヲ受クヘシ

前項警察本分署ノ檢印ヲ受ケサルコト二箇年以上ニ渉ルトキハ免許ノ效ヲ失フモノトス

第五條　獵業免許ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ旗章ヲ製シ獵業ニ從事スルトキハ常ニ船檣又ハ船部ノ見易キ所ニ掲クヘシ

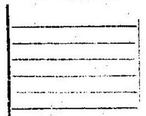
獵船ニ屬スル端艇ニハ本船船名ヲ便宜見易キ所ニ表記スヘシ

獵虎獵船旗章



地色白
筋紅、縱ノ四分ノ一
横縱ノ一ト二分ノ一

臘虎臘肭獸船旗章



地色白
筋上紅、下紺、縱ノ四分ノ一
横縱ノ一ト二分ノ一

臘肭獸船旗章

地色白
筋紺、縱ノ四分ノ一
横縱ノ一ト二分ノ一

第六條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ常ニ免許證ヲ携帶シ軍艦艦長警察官吏稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受クタル官吏ニ於テ檢閲セシコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事シタルトキハ終了ノ後二箇月以内ニ於テ其ノ獵獲シタル臘虎臘肭獸ノ獵獲時日頭數獵獲場所及獵業ニ使用シタル端艇ノ數乘組員ノ種別人員ヲ詳記シ管轄地方廳（東京府下ハ警視廳以下之ニ倣フ）ヲ經由シテ農商務省ニ報告スヘシ

第八條　獵業免許ヲ得タル者第三條ノ免許證ヲ亡失毀損シ又ハ第二條第二第三第四ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ免許證ノ下渡又ハ訂正ノ願書ヲ管轄地方長官ニ差出スヘシ

第九條　獵業免許ヲ得タル者獵業ヲ廢止シ又ハ第四條第二項ニ據リ免許ノ效ヲ失ヒタルトキハ直ニ免許證ヲ管轄地方廳ニ返納スヘシ

○内務省訓令第十五號（明治廿八年十二月六日）

明治廿八年農商務省令第十二號臘虎臘肭獸獵免許規則第二條但書ニ該當スル出願免許ノ件ヲ委任ス

○農商務省訓令第十六號（明治廿八年十二月六日）

臘虎膃肭獸獵免許取扱手續

第一條　臘虎膃肭獸獵免許規則第一條ニ依リ出願スル者アルトキハ免許規則第二條ニ記載シタル各項ヲ調査シ意見ヲ添ヘ本大臣ニ差出スヘシ

第二條　臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ニ該當スル出願アルトキハ願書記載ノ事項ヲ調査シ不都合ナキモノハ免許證ヲ下付スヘシ

第三條　本手續第二條ノ免許證ハ使用高ヲ概算シ毎年三月本大臣ニ請求スヘシ

第四條　本手續第二條ノ免許證ニハ獵業者ノ本籍身分住所氏名船種及獵船ノ定繫場ヲ記入シ廳印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ

第五條　臘虎膃肭獸獵免許規則第八條ニ據リ免許證ノ下渡訂正ヲ出願シタルトキハ同則第一條ニ依レルモノハ農商務省ニ差出シ本手續第二條ニ依レルモノハ調査ノ上亡失毀損ハ再渡シ異動ハ朱書ヲ以テ訂正シ備考欄内ニ其事由ヲ記シテ下付スヘシ

第六條　臘虎膃肭獸獵免許規則第九條ニ據リ返納スヘキ免許證ニシテ同則第一條ニ依レルモノハ其都度農商務省ヘ送付シ本手續第二條ニ依レルモノハ直ニ斷截スヘシ

第七條　免許證原簿ヲ備置キ本手續第二條ノ免許證下付ノ際臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ノ事由ヲ登錄シ廳業又ハ免許ノ效ヲ失ヒタルモノハ其事故ヲ記スヘシ

第八條　本手續第二條ノ免許證ヲ下付シタルモノ又ハ免許證再渡訂正ヲ許可シタルモノハ翌年二月十五日マテニ左ノ表式ニ據リ本大臣ヘ報告スヘシ

第一號表式

臘虎膃肭獸獵免許者報告(明治　年)　廳府縣名

免許證番號	獵業種類	許可ノ月日	獵期及獵場	獵具獵船定繫場	本籍住所身分氏名
第一號	(臘虎膃肭獸)		(北海道何々沿岸何縣何々沿岸)		
第二號	(膃肭獸)	〃	〃	〃	〃
第三號	(臘虎)	〃	〃	〃	〃

第二號表式

臘虎膃肭獸獵免許者異動報告(明治　年)　廳府縣名

免許證番號	獵業種類	月日	事由	住所氏名

第一號（臘虎）（臘肭獸）	何月何日再渡	何月何日何所ニ於テ（亡失）何何ニテ毀損ニ據ル
第二號（臘　肭　獸）	何月何日訂正	何々（轉居）（定繫場）（改名）願出ニヨル
第三號（臘　　虎）	〃〃〃〃〃	〃〃〃〃〃

買スルモノニ適用ス

第二條　本規則ニ於テ漁業ト稱スルハ水産動植物ヲ採捕スル職業ヲ謂ヒ漁業者トハ其職業ニ從事スル者ヲ謂ヒ魚市場トハ定場及場主アリテ水産動植物又ハ第一條ノ製造品ヲ蒐集競賣スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三條　海面漁業ヲ營マントスル者ハ其願書ニ漁場所屬地水産業組合役員ノ連署ヲ得又ハ連署シ難キ理由書ヲ添ヘ郡市長ニ願出漁業鑑札ヲ受クヘシ但役員ノ連署ヲ求メ三十日ヲ經過スルモ連署セス若クハ理由書ヲ交付セサルトキハ其旨ヲ具シ出願スルヿヲ得

第四條　漁場ノ所屬二組合以上ニ渉ルトキハ關係組合ノ協議ヲ以テ一組合役員ノ連署ニ依リ前條ノ出願ヲ爲スヿヲ得

前項ノ協議ヲ爲シタルトキハ郡市役所及當廳ヘ届出ヘシ

第五條　漁業鑑札ハ操業中記名者必ス之ヲ携帶スヘシ

第六條　漁業鑑札ハ賣買貸借又ハ讓渡受ヲ爲スヿヲ得ス但代替リニ由リ相續人ノ讓受ハ此限ニアラス

第七條　漁業鑑札ヲ失却シタルトキハ其失却シタル年月日時場所事由又ハ實況ヲ詳記シ保證人連署ノ上水産業組合役員ノ證明ヲ得テ郡市長ヘ届出ヘシ

前項失却者鑑札ノ再渡ヲ要スル者ハ郡市長ニ請求スルコトヲ得

第八條　海面漁場ノ區域又ハ其專用入會ハ特別ノ規定又ハ特約アルモノヽ外ハ從來ノ慣行ニ據ルヘシ

從來ノ慣行ナキ漁場ヘ入漁セシムヘキ特約ヲ爲サントスルトキハ關係漁業者連署ノ上水産業組合役員ノ證明ヲ得テ其入漁者一郡市内ニ係ルモノハ其郡市長其郡市以外ニ係ルモノハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　漁業鑑札ヲ與フルハ特約ニ依リ入漁スルモノヽ外漁場所屬地ニ現住シ左ノ一號又ハ數號ニ該當スル者ニ限ル

一　採捕所要ノ船及用具ハ自己ノ所有ナル事

二　自ラ採捕ノ操業ヲ爲ス事

三　遊樂又ハ自用ノ爲メ海面ニ於テ魚介若藻ヲ採捕スルハ魚介ハ竿釣、鉾突、柄付網(又掬ヒ網漁、投網徒打、貝拾ヒ、若藻ハ陸取ニ限ル

但慣例ニ依リ田圃ノ肥料ニ供スル爲メ採藻スルモノハ其慣例方法ニヨリ採取スルコトヲ得

第十條　慣例ナキ漁業ヲ起シ又ハ從來使用セサル漁具局部ノ改造ニシテ著シク舊態ヲ變スルモノ及從來ノ構造ナルモ形体ヲ伸張スルモノハ包含ス)ヲ以テ營業セントスルモノハ構造法其圖面使用方法捕獲目的ノ種類時期漁場等ヲ詳記シ第三條出願前豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　築柴堰簀堰、海苔簀、蠣簀、魚簀、魚生簀其他何等ノ名稱ニ拘ラス水産動植物ヲ採捕又ハ飼養スルノ目的ヲ以テ河湖海中ヘ構造物ヲ設置セントスル者ハ其位置區域ヲ明瞭ニシタル圖面面積又ハ延長及其構造設置方法時期年限ヲ詳記シ海面ニ屬スルモノハ其願書ニ關係組合役員ノ連署ヲ得又連署シ難キ理由書ヲ添ヘ郡市長ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第一項ノ許可ヲ得タルモノ三ヶ月以内ニ於テ設置ニ着手セサルトキハ許可ノ効ヲ失フ

前項ノ設置年限ハ築柴堰簀堰ハ一ヶ年海苔簀蠣簀魚簀ハ五ヶ年以内魚生簀ハ十ヶ年以内其他ノ構造物ハ其目的構造ノ如何ニ依リ設置許可ノ際之ヲ定メ其最長年限ヲ十ヶ年トス

第一項ノ許可ヲ得タルモノハ第三條ノ鑑札ヲ要セス

第十二條　第十一條ノ設置滿期ニ至レハ原形ニ復シ其旨郡市長ヘ届出ヘシ

第十三條　第十一條設置ノ許可ヲ得タルトキ陸上及海面ヨリ見易キ場所ヘ面積又ハ延長期限許可ノ年月日願人住所氏名ヲ掲記シタル標木ヲ建設スヘシ

第十四條　銃射捕鯨ヲ爲サントスル者ハ漁場及漁船ノ種類船數及積量乘組員銃ノ種類用法捕獲方法ヲ詳記シ第三條出願前豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　魚市場ヲ開設セントスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ二人以上ノ共設ニ係ルモノハ場主トシテ本規則及組合規約ニ規定シタル諸般ノ責ニ任セシムヘキ者一名ヲ定メ組合地區内赤間關市ニ係ルモノハ組合役員ヲ經由シテ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　市場ノ名稱位置及構造

二　市場規程

三　開設所ヨリ六十間以内ノ現狀ヲ明記シタル圖面

四　賣買品仕出者ノ職業別人員及其地方並ニ仕向地方

五　一ヶ年間賣買見込高

許可ヲ得タル後第一號第二號ヲ變更セントスルトキモ前項ニ同シ

場主變更又ハ代替其他住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ組合加盟者ハ其役員ヲ經ヲ當廳ヘ届出ヘシ

其場主變更ノ場合ニ於テハ新舊兩名連署スヘシ

第十六條　魚市場ハ沿海町村ニ於テハ一町村一ケ所ニ限ル但一町村内漁業者ノ部落相遠隔シ著シキ不便アルモノト認ムルトキ又ハ漁浦以外ノ集散地ニシテ開設ノ必要ヲ認定シタルトキハ特ニ增設ヲ許スコトアルヘシ

前項魚市場ノ許可年限ハ三ケ年トス滿期ニ至リ場主ニ於テ繼續ヲ願出ルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條　市場規程ニ掲載スヘキ事項左ノ如シ

一　開場ノ日時

二　賣買ノ方法

三　手數料ノ歩合

四　賣買代金及手數料受渡期限方法

五　帳簿ノ種類記入法及使用年限

六　場内取締方法

前記ノ外市場ニ於テ必要トスル事項

第十八條　市場ハ公衆ノ見易キ場所ヘ許可年月日市場名場主ノ住所氏名ヲ記シタル標札及市場規程ヲ掲出スベシ

第十九條　市場開設中ハ場主出場シテ取締ヲ爲スベシ

第二十條　市場ノ帳簿ハ日々賣買金高ヲ明確ニ記入シ最終記帳ノ日ヨリ三ヶ年間之ヲ保存スベシ

第廿一條　市場規程外ニ於テ臨時休業ヲ爲スヿハ少クモ三日以前市場ニ掲示スベシ但天災其他豫知スベカラサル事由アルヿハ此限ニアラス

第廿二條　市場規程ノ外故ナク休業連續シテ三十日ヲ超ルカ又ハ一暦年中六十日ヲ超ユルヿハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第廿三條　市場ハ主務吏員現場ヲ視察シテ取締上必要ナル事件ヲ命シ又ハ帳簿ヲ檢査スルヿハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第廿四條　公有水面ニ於テ公益ノ爲メ水産ノ養殖採捕ノ試驗傳習ヲ爲サントスルモノハ其期限位置方法ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可ヲ受ケスシテ試驗又ハ傳習ノ事業ヲ爲シタルヿハ普通漁業トシテ處分ス

第廿五條　水産業組合役員ハ水産業ノ新規出願者アルヿハ第八條第九條規

定ノ事項及妨害ノ有無ヲ調査シ故障ナキモノハ其願書ニ連署シ故障アルモノハ其理由書ヲ書面受領ノ日ヨリ五日以内ニ交付スヘシ但本文ノ調査六日以上ノ日數ヲ要スルトキハ期日ヲ豫定シ其旨願人ニ告知スベシ其日數ハ三十日ヲ超ユルヲ得ズ

水産業組合役員ハ市場ノ開設願書ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ組合員ニ關スル利害ノ意見書ヲ付シ町村役場ニ送付スベシ

第二十六條　本規則ニ據リ許可又ハ認可ヲ受ケ若クハ鑑札ヲ受ケタルモノ廢業シタルトキハ三日以内ニ其許可認可ヲ受ケタル官廳ヘ屆出鑑札ヲ返上スヘシ當初組合ヲ經テ願出タルモノハ組合役員ヲ經由スヘシ

第二十七條　本規則ニ據リ差出スヘキ文書ハ總テ市役所町村役場ヲ經由シ其組合ヨリ差出ス文書ハ郡市役所ヲ經由スヘシ

第二十八條　水産事業ニ關シ許可若クハ認可ヲ與ヘ又ハ鑑札ヲ下付シタル後ト雖モ公益上必要ト認ムルトキハ其區域期限又ハ季節ヲ制限シ又ハ其事業ヲ停止シ若クハ禁止スルコアルヘシ

第二章　禁止制限

第二十九條　水産繁殖ノ爲メ必要ト認ムルトキハ動植物ノ種類年齢寸尺重量採捕ノ用具方法季節ヲ制限又ハ禁止ス其事項ハ別ニ告示ス

前項制限禁止ニ係ル動植物ヲ誤テ採捕シタルトキハ即時之ヲ放流スヘシ

第三十條　前條ニ據リ種類年齢寸尺重量ヲ制限又ハ禁止シタル水産動植物ハ販賣スルコトヲ得ス種類ニ據リ季節ヲ限リタルモノハ其期間亦同シ

第三十一條　第二十四條ノ目的ニ供用スルモノ其他特別ノ理由ニ依リ採捕ヲ必要トスルトキハ本規則又ハ組合規約ニ規定シタル制限又ハ禁止ニ係ルモノト雖モ特許ヲ與フルコアルヘシ

第三章　水産業組合

第三十二條　沿海市町村内ニ於テ第一條ニ掲クル業(捕鯨業及河湖動植物ニ關スルモノヲ除ク)ヲ營ムモノハ水産動植物ノ蕃殖保護及漁業ノ發達製造ノ改良販路ノ擴張ヲ圖リ兼テ漁場及同業者營業上ノ取締ヲ爲シ同業一般ノ福利ヲ增進スルヲ目的トシ同業者トシテ本規則ニ依リ郡市ヲ限リ組合ヲ設置シ規約ヲ締結スヘシ

沿海ニアラサル町村ト雖モ水産業ニ於テ沿海ニ齊シキ關係ヲ有スル町村ノ一部又ハ全部ハ前項組合地區トス其地名ハ別ニ告示ス

第三十三條　組合地區内ノ狀況ニ依リ郡市ヲ分合シ又ハ同業トスヘキ第一地區ハ其都度告示ヲ以テ定メラルヽニ付掲載セス

條製造品ノ種類ヲ增減スルノ必要アルトキハ組合會議ノ決議ヲ以テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

赤間關市ニ於テハ卸賣及仲買營業者ヲ以テ組合ヲ別立スルコトヲ得

第三十四條　水產業組合設置ノ地區內ニ於テ同業ヲ營ムモノハ組合ニ加盟スヘシ

組合ニ加入シ難キ特殊ノ事由アルモノハ知事ノ認定ヲ受クヘシ

組合地區外ノモノニシテ慣行特約ニ依リ組合所屬ノ漁場ニ於テ漁業ニ從事スルモノ又ハ漁業以外ノ同業ヲ地區內ニ營ムモノハ其地區組合規約中組合以外ノ者ニ關スル規定事項ヲ遵守スヘシ其事項ハ別ニ告示ス

第三十五條　遊樂又ハ自用ノ爲メ魚介苔藻ヲ採捕スル者又ハ慣例ニ依リ田圃ノ肥料ニ供スル爲メ採藻スル者ハ組合ニ加盟セサルモ其地區組合規約中組合以外ノ者ニ關スル規定事項ヲ遵守スヘシ其事項ハ別ニ告示ス

第三十六條　組合ノ名稱ハ山口縣何郡(市)(二郡市以上ハ郡市名ヲ列記ス)水產業組合ト稱スヘシ但第三十三條第二項ニ據リ別立シタル組合ノ名稱ハ此限ニアラス

第三十七條　組合ハ區域內便宜ノ地ニ事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

組合ハ規約施行上ノ便宜ニ依リ區ヲ設クルヲ得

第三十八條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ揭載スヘシ

一　組合事務所ノ位置

二　組合議員數

三　組長ノ外組合役員ヲ設クルトキハ其名稱及人員

四　組合議員役員ノ撰擧法及職務權限

五　組合內ニ區ヲ設クルトキハ之ニ關スル規程

六　加入者及退去者ニ關スル規程

七　組合會議ニ關スル規程

八　水產蕃殖保護ニ關スル規程

九　製造幷ニ荷造ニ關スル規程

十　漁村維持方法

十一　本規則幷ニ組合規約ニ係ル諸般ノ紛議仲裁ニ關スル規程

十二　新規漁業出願ニ關スル調查手續

十三　組合以外ノ者ニ關スル規程

十四　違約者處分ニ關スル規程

前記ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第三十九條　組合ニ組長ヲ置キ組合會議ニ於テ撰擧シ撰任及改撰ノ都度知事ノ認可ヲ受クヘシ

組長ノ任期ハ三ケ年トス

第四十條　知事ニ於テ組長不適任ト認ムルトキハ其改撰ヲ命ス

第四十一條　組合ハ其規約ヲ以テ組長ノ外役員ヲ置クヿヲ得

前項ノ役員ヲ撰任シタルトキハ其人名ヲ當廳ヘ屆出ヘシ

第四十二條　集合團体ノ名義ヲ以テ組合員トナル者ハ代表人ヲ定メ組合ニ對スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第四十三條　組合ハ營利事業ヲ爲スヿヲ得ス

第四十四條　組合會議ハ毎年一回定期之ヲ開キ必要アルトキハ臨時之ヲ開クヘシ

第四十五條　組合會議ニ於テハ組合規約及之ニ關スル諸般ノ事項ヲ議決スルモノトス

組合規約ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ爾後變更ノトキ亦同シ

第四十六條　組合會議員ハ適宜撰出區ヲ定メ其區内組合員數ヲ標準トシテ議員數ヲ定メ組合員中ヨリ區内組合員之ヲ撰擧スヘシ

各撰出區ノ定員ハ組合規約ヲ以テ規定スヘシ

左ニ掲クルモノハ被撰擧權ヲ有セス

一　縣内ニ於テ同業ヲ營ミ滿五ケ年(父祖ノ代ヨリ繼續スルモノハ通算スヘシ)ヲ經サル者

二　未丁年者

三　瘋癲白痴ノ者

四　破産宣告又ハ家資分散處分ヲ受ケ復權ヲ得サル者

五　農工商業ヲ妨害スル罪信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ヲ以テ重禁錮一ケ年以上ノ刑ニ處セラレ滿期後又ハ放免後滿三ケ年ヲ經サル者

六　公權剝奪若クハ停止中ノ者

七　本規則若クハ組合規約ニ違背シ其處分ヲ受ケ一ケ年ヲ經サル者

第四十七條　會議ヲ開カントスルトキハ開會十日以前ニ開會期日場所及議件ヲ當廳ヘ屆出會議終結シタルトキハ五日以内ニ其議決シタル要領ヲ屆出ヘシ

第四十八條　毎年四月一日ヨリ翌年三月卅一日迄ヲ一週年度トシ組長ハ年度中經費ノ收支豫算及賦課徴收方法ヲ取調ヘ組合會議ノ決議ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條　組合ハ毎年度後五十日以内ニ前年度ノ經費收支ノ精算ヲ完了シ次ニ開ク所ノ會議ニ報告シ然ル後當廳ヘ屆出ツヘシ

第五十條　組合ハ毎年度後三十日限リ左記前年度ノ事績ヲ當廳ヘ屆出尚便宜組合員ニ報告スヘシ

一　職業別年度末現在人員及前年度末比較增減其理由

二　事務ノ功程

三　事業ノ盛衰及其原由

四　違約者人名事由及處分顚末

五　紛議仲裁ノ事件及其顚末

第五十一條　縣下各組合若クハ數組合ノ利害ニ關スル事項ヲ議スルノ必要アル片ハ其關係組合ノ聯合會ヲ開設スルヿヲ得

第五十二條　組合ハ聯合會開設ノ必要ヲ認メタル片ハ其關係組長連署ニシテ其事由ヲ具申シ知事ノ認可ヲ得テ之ヲ開クヘシ

規約ヲ締結シタル片ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ爾後變更ノ片亦同シ

知事ニ於テ聯合會ノ必要ヲ認メタル片ハ開設ヲ命スルヿアルヘシ

第五十三條　聯合會ニ關スル費用ハ關係組合費ヲ以テ支辨スヘシ

第五十四條　聯合會議員ノ員數及撰定法幷ニ會議規程ハ聯合會ニ於テ規定シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條　聯合會議員撰定ノ上ハ其職業氏名ヲ當廳ヘ屆出スヘシ

第五十六條　組合會議員及聯合會議員ノ任期ハ三ヶ年トス

第五十七條　組合員ハ組合ノ經費ヲ負擔スヘシ

第五十八條　知事ニ於テ組合ノ行爲若クハ組合會議聯合會議ノ決議法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スルノ恐アリト認ムル片ハ取消又ハ中止ヲ命スル

第五十九條　公益上必要アリト認ムル片ハ知事ハ水産業組合ノ分立合併ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條　知事又ハ所轄郡市長ハ吏員ヲ派遣シ組合事務ノ擧否其他事業施行若クハ成績ヲ視察又ハ監査セシムルヿアルヘシ

第四章　罰則

第六十一條　左ノ一項又ハ數項ニ觸ルヽモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下

ノ科料ニ處ス

一　第十一條ニ該當スル既設構造物ノ年限本規則實施ノ日ヨリ起算シ同條第二項ノ制限ニ超ユルトキハ更ニ同日ヨリ起算シ同項規定ノ最長限ヲ以テ其年限トス

一　本規則第五條第廿條ノ規定ニ違ヒタルモノ

一　同第七條第十二條ノ屆出ヲナサヽルモノ

一　同第十三條ノ建設ヲナサヽルモノ

一　同第十八條第廿一條ノ掲出又ハ掲示ヲ爲サヽルモノ

一　同第十九條ニ據リ出場セサルモノ

一　同第三十條ヲ犯シタルモノ

第六十二條　左ノ一項又ハ數項ニ觸ルヽモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一　本規則第三條ノ鑑札ヲ受ケス又ハ第八條ノ慣行漁場以外ニ於テ漁業シタル者

一　本規則第六條第二十九條ヲ犯シタル者

一　許可ヲ受ケスシテ本規則第十一條ノ設置ヲ爲シタル者

一　許可ヲ受ケスシテ本規則第十五條ノ市場ヲ開設シ又ハ其第一號第二號ヲ變更シタル者

一　本規則第二十三條主務吏員ノ命令又ハ檢査ヲ拒ミタル者

一　本規則第三十四條第二項ノ認定ヲ受ケスシテ組合ニ加盟セサル者

一　同第三十四條第三項第三十五條ノ規定事項ヲ遵守セサル者

一　同第五十七條組合經費ノ負擔ヲ拒ミタルモノ

第五章　附則

第六十三條　本規則ハ明治二十九年四月一日ヨリ實施ス

第六十四條　本規則ニ據リ許可認可又ハ鑑札ヲ受クヘキモノニシテ從前ノ規定ニヨリ既ニ之ヲ得タルモノハ新ニ願出ルヲ要セス但本規則ニ抵觸スルモノハ無効トス

第十一條ニ該當スル既設構造物ノ年限本規則實施ノ日ヨリ起算シ仝條第二項ノ制限ニ超ユルトキハ更ニ仝日ヨリ起算シ仝項規定ノ最長限ヲ以テ其年限トス

既設魚市場第十六條第二項ノ年限ハ本規則實施ノ日ヨリ起算シ其年限中ハ同條第一項ノ數ニ超ユルモ許可ノ効ヲ失ハス

第六十五條　水產業組合創立ノ爲メ郡市長ハ明治二十九年二月一日迄ニ其郡市內第三十二條ノ同業者ヨリ組合創立委員五名乃至七名ヲ撰定シ其委員ヲシテ假リニ組合會議員及組長撰擧法幷ニ會議規程ヲ定メ知事ノ許可ヲ得テ仝年三月三十一日迄ニ第三十二條ノ同業者ヲシテ組合會議員ヲ撰擧セシメ會議ヲ開キ規約豫算及ヒ役員ヲ定メ知事ノ認可ヲ得テ組合ヲ組織セシムヘシ

第六十六條　聯合會議ノ創立ニ際シ第五十四條ノ事項ハ關係組長ニ於テ之ヲ假定シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六十七條　明治十七年本縣甲第六十六號布達明治十九年本縣甲第六十三號布達明治二十一年縣令第八十一號明治二十三年縣令第二十四號明治二十四年縣令第二十六號明治二十五年縣令第四十八號明治二十六年縣令第五十五號及本規則ニ抵觸ノ諸令達ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

參照

甲第六十六號布達　潛水器械取締規則
甲第六十三號布達　漁業組合準則
縣令第八十一號　築柴堰及簀堰漁業取締規則
縣令第二十四號　漁業取締規則
縣令第二十六號　魚生簀設置ニ關スル件
縣令第四十八號　海苔簗蠣簗設置ニ關スル件
縣令第五十五號　諸市場取締規則

○訓甲第八號（明治廿九年二月廿八日）　郡市役所　町村役場

明治二十八年（十一月）縣令第五十八號水產業取締規則施行手續左ノ通規定ス

水產業取締規則施行手續

第一條　規則第三條ニ依リ新ニ海面漁業鑑札ノ下附ヲ出願シタルトキハ町村長ハ規則第九條ニ照シテ精査シ其當否ヲ副申スヘシ

第二條　漁業願書ニ組合役員ノ連署シ難キ理由書ヲ添ヘ願出タルトキハ郡市長ハ其理由ノ當否ヲ精査シ意見ヲ具シ當廳ニ稟議スヘシ

第三條　規則第三條第一項但書ニ依リ願出タルトキハ郡市長ハ先ツ期日ヲ定メ組長ヘ事由上申方ヲ達スヘシ而シテ組長ヨリ上申シタル其當否ヲ精査シ又期日內ニ事由上申セサルトキハ事實ヲ調査シ許否スヘシ但組長ノ上申其出願否拒ニ涉ルトキハ許否ノ意見ヲ付シ當廳ヘ稟議スヘシ

第四條　規則第八條第二項ニ依リ特約締結ノ認可ヲ與ヘタルトキハ契約書

ノ寫ヲ添ヘ當廳ヘ屆出ツヘシ其郡市以外ニ係ル特約ノ認可ヲ請ヒタルトキハ利害得失ヲ査考シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第五條　規則第十條ニ依リ慣例ナキ漁業ヲ起シ又ハ從來使用セサル漁具使用ノ許可ヲ出願シタルトキハ郡市長ハ從來ノ漁業ニ支障ヲ來タスヘキヤ否及水族蕃殖上妨害ノ有無ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第六條　規則第十一條ニ依リ構造物ノ設置ヲ出願シタルトキハ町村長ハ關係町村故障ノ有無及水族蕃殖并ニ水利交通ノ如何ヲ調査シテ副申スヘシ郡市長ハ之ヲ精査シ築柴堰簀堰ハ一ヶ年飭海苔簀蠣簀魚簀ハ五ヶ年以内魚生簀ハ十ヶ年以内其他ノ構造物ハ其目的構造ノ如何ニ依リ十ヶ年以内ニ於テ適宜期限ヲ豫定シ當廳ヘ禀議ノ上處分スヘシ但組合役員ノ連署シ難キ理由書ヲ添付セルモノハ其當否ノ意見ヲモ併セテ具狀スヘシ

前項ノ許可ヲ受クタル後構造ノ增減變更ヲ出願シタルトキハ總テ前項ノ手續ニ據ルヘシ

第七條　町村長ニ於テ規則第十二條ノ屆書ヲ受ケタルトキハ實地檢査ノ上不都合ナキモノハ其旨副申進達スヘシ

第八條　銃射捕鯨ノ創始ヲ出願セルトキハ町村長ハ危害ノ有無及一般漁業ニ對スル妨害ノ有無并ニ其漁場ノ在來捕鯨場トノ關係等調査副申スヘシ郡市長ハ之ヲ精査シ市長ハ町村長ノ調査スヘキ事項ヒ所轄警察署長仝分署長合議ノ上許否ノ意見ヲ具申スヘシ

第九條　規則第十五條ニ依リ魚市場ノ新設又ハ仝條第二項ノ出願アルトキハ郡市長ハ所轄警察署長又ハ分署長合議ノ上公益上妨害ノ有無及賣買上ノ便否ニ關シ意見ヲ具シ仍ホ組合役員ヨリ添付シタル意見書ノ當否ヲ調査シ開申スヘシ

第十條　一市町村内ヨリ同時ニ數カ所ノ市場新設ヲ出願シタルトキハ郡市長ハ實地調査シ所轄警察署長又ハ分署長合議ノ上各願書ニ意見ヲ付シ進達スヘシ

第十一條　郡市長ハ隨時吏員ヲ派シ規則第十七條以下第二十二條迄ノ各條ニ就キ市場ノ實況ヲ視察セシムヘシ

第十二條　規則第二十四條ニ依リ水産ノ養殖又ハ採捕ノ試驗傳習ノ認可ヲ出願シタルトキ郡市長ハ其事業ノ果シテ公益ナルヤ否ヲ調査副申スヘシ

第十三條　郡市長ハ許可認可ヲ與ヘタル事件ニシテ實施後ノ現況ニ依リ公益上其區域期限季節等ヲ制限シ又ハ其事業ヲ停止若クハ禁止スルノ必要

ヲ認メタルトキハ其事由ヲ具シ當廳ノ處分ニ係ルモノハ之ヲ開申シ郡市長ノ處分ニ屬スルモノハ之ヲ稟議スヘシ

第十四條　規則第三十三條ニ據リ組合地區ノ分合又ハ同業トスヘキ製造品種類增減ノ認可ヲ出願シタルトキハ郡市長ハ其地ノ狀況ヲ參酌シ當否ヲ精査シ意見ヲ具申スヘシ

第十五條　特殊ノ事由アリテ組合ニ加盟シ難キ認定ヲ請フモノアルトキハ郡市町村長ハ事實ノ當否ヲ精査シテ副申スヘシ

第十六條　規則第三十四條第三項及ヒ第三十五條中ノ組合以外ニ關スル規定事項ノ認可ヲ請フトキハ郡市長ニ於テ地方ノ狀況ニ照シ其當否ヲ調査シ意見ヲ具申スヘシ

第十七條　郡市長ニ於テ組合ノ行爲又ハ組合會議聯合會議ノ決議公益ヲ害スルノ恐レアリト思量シタルトキハ事實ヲ精査シ敏速具狀スヘシ

第十八條　郡市長ハ隨時吏員ヲ派シ組合事務ノ景況ヲ視察セシムヘシ

前項ノ視察ヲ爲サシメタルトキハ其景況ヲ當廳ヘ報告スヘシ

○示警甲第十二號（明治廿九年三月三日）

本年二月訓甲第八號ヲ以テ水產業取締規則施行手續被相定候ニ付テハ同手續第八條乃至第十條ニ依リ郡市長ヨリ合議ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ取調ヘ意見書ヲ交付セラルヘシ

一手續第八條ノ合議ヲ受ケタルトキハ使用銃ノ種類員數用法其他危害ノ有無及他ノ捕鯨場トノ關係

一手續第九條第十條ノ合議ヲ受ケタルトキハ市場ノ位置構造最近市場トノ關係地元人民ノ意向等公安及衛生上妨害ノ有無

○告示第三十二號（明治廿九年三月六日）

明治廿八年十一月縣令第五十八號水產業取締規則第廿九條禁止及制限ノ事項左ノ如シ

水產業禁止制限事項

第一項　漁具禁止及制限

一　潛水器械ヲ用ヰ水產動植物ノ採捕ヲ禁ス

二　網ニ因幡布方言カヤ網ト稱ス）物質及名稱ヲ異ニスルモ蕃殖上ノ害等シキモノハ總テ含包ス）ヲ用ヰルヲ禁ス

三　帆引網ハ船一艘ニ使用スヘキ個數ヲ貳個以下トシ其網目新調ノ際ハ五寸ニ拾六節ヨリ細カナルヲ禁ス尤モ使用中自然收縮セシモノハ其

拾九節ニ至ル迄ハ特ニ之ヲ免ス

但在來ノ網ハ水産業組合役員ノ證明ヲ經郡長ノ許可ヲ得テ本文網目ノ制限ニ拘ハラス明治三十年四月十九日迄使用スルヲ得

四　帆引網ハ縣下ヲ通シテ使用船千五百艘分以内ニ限ル其使用船各地區分ノ制限ハ從來使用ノ慣行アル水産業組合ノ聯合會ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クルモノトス

五　手繰網(漁引網(二艘曳カセ網又下直網トモ云フ)ノ網目ハ五寸ニ拾四節ヨリ細カナルヲ禁ス

但シ本號ハ明治三十年一月一日ヨリ實施ス

六　大敷網ノ魚取リニ敷布(魚取袋ノ内ニ布ヲ敷キ魚ヲ漁スルヲ云フ)ヲ爲スヲ禁ス

第二項　漁法禁止

一　水産動植物ノ繁殖ヲ害スヘキ物質(石灰、山椒、胡桃、蓼、烟草ノ葉莖、馬酔木、[方言パンチヤト云フ]齋柳、木實、方言チナイノミト云フ柿澁、苦壜ノ類又ハ爆烈物ヲ用ヰテ採捕スルヲ禁ス

第三項　寸法制限

一　眞珠貝　貝面長形二寸以下ノモノヲ採ルヲ禁ス

二　鮑貝面　長形三寸五歩以下ノモノヲ採ルヲ禁ス

三　海鼠　形体長サ四寸以下ノモノヲ採ルヲ禁ス

第四項　季節制限

一　帆引網ハ毎年四月二十日ヨリ五月三十一日迄及九月一日ヨリ仝二十日迄ノ間使用ヲ禁ス

二　手繰網(漁引網(二艘曳カセ網又下直網ト云フ)ハ毎年二月一日ヨリ五月三十一日迄使用ヲ禁ス

但本號ハ明治三十年一月一日ヨリ實施ス

三　海鼠取桁網ハ毎年三月十五日ヨリ四月三十日迄使用ヲ禁ス

四　鮎魚ハ毎年一月一日ヨリ四月三十日迄捕獲ヲ禁ス

但玖珂郡小瀬川ヲ除ク

五　搗布ハ毎年一月一日ヨリ七月三十一日迄及九月一日ヨリ十二月三十一日迄刈取ヲ禁ス

六　眞珠貝ハ毎年五月一日ヨリ八月三十一日迄捕獲ヲ禁ス

七　ガル藻アヲ藻ヒラ藻(富蒲藻ト云フ)ハ毎年一月一日ヨリ三月三十一日

迄及十一月一日ヨリ十二月三十一日マテ刈取ヲ禁ス

但慣行ニ依リ自用肥料ノ爲メ陸上ヨリ採取スルハ此限リニアラス

○縣令第十九號（明治廿九年三月六日）

明治二十八年十一月縣令第五十八號水產業取締規則實施以前ニ於テ同規則第八條第二項ニ該當スル特約ヲ爲シタルモノハ其契約書ノ寫ヲ添ヘ又成文ノ契約書ナキモノハ特約事項ヲ詳記シ双方漁業者連署ヲ以テ實施期日迄ニ一郡中ニ係ルモノハ其郡市役所其郡市以外ニ係ルモノハ關係郡市役所及當廳ヘ屆出スヘシ

○縣令第二十五號（明治廿九年三月十三日）

水產取締規則ニ據リ漁業採藻ノ營業鑑札ヲ下付スルトキハ併セテ標札ヲ交付スヘキニ依リ當ニ現住所ノ戶外ニ掲出スヘシ違フ者ハ二十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス但廢業スルトキハ鑑札ト共ニ返納スヘシ

第五章　營業取締

第一欵　質屋

○法律第十四號（明治廿八年三月十日）

質屋取締法

第一條　質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設ンルトキ亦同シ

廢業シタルトキハ行政廳ニ屆出ヘシ

第二條　質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入

シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條　住所氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿質札及通帳ノ製方及樣式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條　質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ掲示スヘシ

一　利子割合

一　流質期限

一　質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方

一　質物出入時間

第七條　傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條　質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條　質屋ハ左ニ掲クル制限內ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限リ無效トス

第十條　質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條　質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條　質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條　贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月內ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ屆出ヘシ

第十五條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以內ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條　質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條　營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　質屋法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十九條　禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條　質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條　行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條　左ニ揭クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條ノ場合ニ於テ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二　第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三　禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四　第八條第一項及第十九條ニ違犯シタル者

第二十三條　第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰズ

第二十五條　質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十七條　此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セス

第二十八條　此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條　明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○內務省令第九號（明治二十八年七月二十六日）

質屋取締法細則

第一條　質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣（東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ）知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ屆出ヘシ

第三條　店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ屆出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ屆出ヘシ但シ死亡者非戶主ナルトキハ其死亡ハ戶主ヨリ屆出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ屆出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戶長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條　前二條ノ屆出及廢業ノ屆出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ屆出ルハ相續ノ日ヨリ十日以內ニ於テスヘシ

第五條　帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以內ニ其ノ事由ヲ疏明シ

行政廳ニ届出ヘシ

第七條　質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製法及樣式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條　第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　此細則ニ規定シタルモノヽ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○縣令第四十號（明治二十八年八月二十一日）

質屋取締法仝細則施行規則

第一條　質屋取締法及仝細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ所管警察署長又ハ分署長ニ委任ス

但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニアラス

第二條　質屋營業願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　住所氏名年齢

二　氏名ヲ改稱シタルモノハ舊氏名

三　新ニ移轉シタルモノハ前住所及其年月日

四　店舗ノ所在地

免許ヲ受ケタル後前各項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三條　質屋ハ左記雛形ノ標札ヲ其店舗ニ掲出スヘシ支店ニ於ケル亦同シ

竪曲尺二尺　横曲尺五尺五寸

住所
質屋氏名
（店舗又ハ支店）

第四條　質屋ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

一　質物臺帳

二　流質物賣拂帳

第五條　前條ノ帳簿ハ使用以前ニ紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　質物及帳簿ニハ同一ノ番號ヲ付スヘシ

第七條　質物臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　質物ノ種類員數品質摸樣徽章番號

二　貸金額及利子ノ割合

三　質入主ノ住所氏名

四　質入受戻入換流質年月日

五　取締法第四條但書ノ場合ニ於テハ其旨ヲ記入シ證人ヲ立テタルトキハ其證印ヲ取ルカ又ハ其證ヲ徵スヘシ

第八條　流質物賣拂帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　物品ノ種類員數及ヒ之ニ屬スル質物臺帳ノ番號流質物ヲ自用ニ供シ若クハ無償ニテ他人ニ讓與シタルトキ亦同シ

二　前項第一ノ場合ニ於テハ價格第二ノ場合ニ於テハ其事由

三　賣拂ノ年月日

第九條　質屋取締法第六條ノ事項ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ增減變更シタルトキ亦同シ

第十條　質札及通帳ニハ適宜ノ箇所ニ質屋取締法第六條ノ事項ヲ記載スヘシ

第十一條　管理人ヲ置クトキハ本則第二條ニ準據屆出ヘシ

第十二條　所轄警察署又ハ分署ヨリ品觸レノ廻達ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ寫取リ順次編綴シ其廻達書ニハ到達ノ月日時ヲ記入シ認印ノ上即時順達シ周尾サルトキハ警察署又ハ分署ニ返納スヘシ

第十三條　品觸寫綴ハ最寄營業者三名以下申合セ之ヲ共用スルコトヲ得此場合ニ於テハ豫ノ所轄警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十四條　本則第二條末項第四條第五條第六條第七條第一項第三項第五項第八條第九條第十一條ニ違背シ又ハ第十二條ノ廻達ヲ怠リタル者及第十三條ノ認可ヲ受ケサル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ據リ處分セラルヘシ

附則

第十五條　明治十七年五月本縣甲第五十九號布達質屋取締細則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　從來ノ質屋ニシテ引續キ營業セントスルモノハ更ニ免許ヲ受クルヲ要セス明治二十八年九月一日迄ニ屆出ヘシ

第十七條　從來ノ營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄從前使用ノ帳簿

ヲ襲用スルコトヲ得

○訓警甲第四號（明治廿八年八月三十日）

質屋取締法同細則施行規則取扱手續

第一條　營業ニ關スル願出ヲ受ケタルトキハ質屋取締法同細則並施行規則ニ照シ處理スヘシ

第二條　營業免許ヲ願出タルトキハ取締法第十九條及手續第三條ニ抵觸ノ有無ヲ調査シタル後許否スヘシ支店ノ管理人ニ付テモ亦同シ

第三條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ニハ質屋營業又ハ管理人タルヲ許サス

一　未成年者、白痴、瘋癲者ニシテ營業上ノ責任ヲ負擔スル父母、戸主又ハ後見人ナキ者

二　營業停止ノ處分ヲ受ケ未ダ解停セサルニ廢業ヲ届出而シテ後新ニ營業免許ヲ願出タル者

三　强窃盜、詐欺取財又ハ財物ニ關スル罪ヲ犯シ被監視中ノ者

第四條　警察署又ハ分署ニハ左ノ台帳ヲ備ヘ遅キ免許ヲ爲シタル都度登記シ廢業又ハ營業ノ禁停止其他異動ヲ生シタル毎ニ加除訂正スヘシ

一　質屋臺帳

二　質屋禁停止人名臺帳

第五條　前條臺帳ノ樣式左ノ如シ

臺帳ハイロハ別トナシ且ツ見出シヲ付スヘシ

質屋臺帳（用紙美濃紙）

指令番號	免許年月日	廢業年月日	店舗又ハ支店	營業者又ハ管理人後見人住所	氏名	備考
						イ
						ロ
						ハ

一　廢業ノ年月日ハ朱ヲ以テ記入スヘシ

二　住所移轉改氏名又ハ營業禁停止等ハ備考欄内ニ記入スヘシ

質屋禁停止人名臺帳（用紙美濃紙）

禁停止年月日	禁停止別	停止ノ期間又ハ解禁年月日	營業者住所	氏名	處分シタル廳府縣名	
						イ
						ロ
						ハ

一　禁停止ノ人名ハ縣内ニ係ル者ハ縣報又ハ警察公報其他ハ官報ニ依リ記入スヘシ

第六條　營業禁停止又ハ解禁停スヘキモノト認ムルトキハ其事情ヲ具シテ申報スヘシ

第七條　取締法第四條但書ニ依リ認可ヲ請フトキハ其物品ノ出所ヲ取糺シ不正品ニアラスト認ムルトキハ左ノ書式ニ準據シ認可書ヲ交付スヘシ

一何品　何個　但目印番號何々

一何品　何枚　但縞柄摸樣損所何々

右何所何某ヨリ質物トシテ取ルヿヲ認可ス

何警察署長分署長

年號月日　官　氏　名　印

第八條　品觸ハ所轄内ヲ適宜ニ區畫シテ發送シ廻達上遲延ナキヲ期スヘシ

第九條　取締法第七條第二項仝第十五條仝第十六條ノ處分ハ警察署長又ハ分署長ニ於テ自ラ之ヲ執行スヘシ若シ止ムヲ得サル場合ハ部下署僚又ハ巡査ニ委任シテ處分セシムヘシ

前項ノ處分ヲ了リタルトキハ其品目及事由ヲ具シテ報告スヘシ

第十條　取締法第七條第二項ニ依リ官沒ノ處分ヲ爲ストキハ第一號書式ニ準據シ官沒處分書ヲ交付スヘシ取締法第十六條ニ依リ物品ヲ徵收シタルトキハ第二號書式甲號徵收處分書ヲ交付シ乙號以下ハ夫々處分ノ上保存スヘシ

第一號書式　官沒處分書

住所職業　氏　名

一何品　何枚

一何品　何個

右傳染病毒ニ汚染シタル物品ト認メ消毒ヲ命シタルニモ拘ハラス其命令ニ從ハサルヲ以テ明治廿八年法律第十四號質屋取締法第七條第二項ニ據リ官沒スルモノ也

何警察署長分署長

年號月日　官　氏　名　印

第二號書式　甲號　徵收處分書

住所職業　氏　名

一何品　何個　但目印番號何々
一何品　何枚　但縞柄摸樣損所何々
右何所何某ヨリ質ニ取リタル物品ハ何所何某ノ遺失物(賍物)ニ係ルヲ以テ明治廿八年法律第十四號質屋取締法第十六條ニ據リ被害者ヘ還付ノ爲メ徵收スルモノ也

年號月日　何警察署長分署長
官　氏　名　印

署印　署長……又ハ代務者印
割印　割印

乙號　領收證
一何品　何個　但目印番號何々
一何品　何枚　但縞柄摸樣損所何々
右年月日何所ニ於テ遺失シ(又ハ盜難ニ罹リ)タル物品ニ有之候處今般何所質屋何某カ質物ニ取リタルコト發覺シ徵收ノ上御還付相成正ニ領收候也

年號月日　住所　氏　名印

丙號　警察署長分署長宛　官沒處分書
一何品　何個　但目印番號何々
一何品　何枚　但縞柄摸樣損所何々
右ハ何所質屋何某カ何所何某ヨリ質物トシテ取リタル物品ニシテ遺失物(又ハ賍物)ニ係ルヲ以テ何年何月何日徵收シタル處其被害者知レサルニ付官沒スルモノ也

年號月日　何警察署長分署長
官　氏　名　印

(甲號徵收書ノ裏面ニハ左ノ事項ヲ登記シ置クヘシ)
表面ノ物品ニシテ若シ被害者知レサルトキハ本日ヨリ二個年ノ後官沒ス
前項ノ處分ヲ爲スニ當リ別段通報ノ手續ヲ爲サス

何警察署長分署長
官　氏　名　印

年號月日
第十一條　取締法第七條ニ依リ官沒シタルトキハ其物品ハ品質其他ノ事情ニ依リ消毒又ハ燒却シ第十六條ニ依リ官沒シタルトキハ遺失物及賊捨置

品出納規程ニ準據シ處置スヘシ

第十二條　取締法第十五條ノ領置証書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

領置證書

一何品　何枚　但縞柄摸樣損所何々

一何品　何個　但目印番號何々

右物品ハ犯罪ノ嫌疑アルヲ以テ(又ハ遺失物若クハ傳染病毒ニ汚染シタルモノト認ムルヲ以テ)明治廿八年法律第十四號質屋取締法第十五條ニ依リ領置スルモノ也

年號月日

何警察署長分署長

官氏名　印

第十三條　前條領置ヲ爲シタルトキハ直チニ取調ヲ爲シ若シ犯罪ニ關係アルモノト認ムルトキハ刑事訴追ノ手續ヲ爲シ遺失物又ハ傳染病毒ニ汚染シタルモノト認ムルトキハ取締法第七條同第十六條ニ依リ處分シ然ラサルモノハ速ニ本人ニ還付スヘシ但シ還付シタルトキハ前ニ交付シタル領置證書ヲ徵スヘシ

第十四條　取締法第十七條ニ依リ帳簿ノ廢棄ヲ願出タルトキハ左ノ程度ニ依リ許否スヘシ

一普通ノ場合ハ記載ヲ終リタル後三年以上五年以内

二特別ノ事情アリテ五年以上保存ノ必要アルトキハ事由ヲ具シ警部長ニ稟議スヘシ

第十五條　帳簿ノ毀損又ハ亡失ノ屆出ヲ受ケタル其疎明ノ實否ヲ精査スヘシ

○警規第八拾七號(明治十七年二月十五日本縣達)

品觸心得

第一條　品觸ハ盜難屆書ノ中ヨリ恰好摸樣等ノ著明ナル物品ヲ拔萃シテ記載スヘシ但恰好摸樣等ノ著明ナラサルモノト雖トモ一個ノ被盜品ニシテ價額三拾圓以上ノモノハ成ル可ク其恰好摸樣ヲ詳ニシ一回ノ被盜品ニシテ價額合計百圓以上ノモノハ就中恰好摸樣ノ稍著明ナルモノ數品ヲ記載スルモノトス

第二條　一個ノ被盜品ニシテ價額三十圓以上ノモノ又ハ一回ノ被盜品ニシテ價額合計百圓以上ノモノハ其物品ノ恰好摸樣等著明ナルハ勿論著明ナラサルモノト雖トモ前書但書ニ據リ恰好摸樣等ヲ詳記シ各警察署及ヒ所轄各分署ヘ通知スヘシ但分署ニ於テハ成ルヘク近傍ノ分署ヘ通知シ置キ

他ノ各署ヘノ通知方ヲ所轄警察分署ヘ請求スルモ妨ケナシ

第三條　前條ノ通知ヲ受ケタル警察署ニ於テハ之ヲ所轄各分署ヘ通知シ請求ヲ受ケタル警察署ニ於テハ各警察署及ヒ所轄各分署ヨリ通知シタル分署及ヒ原分署ヲヘ通知スヘシ

第四條　品觸ハ書式ニ照シ成ルヘク品物ノ恰好模樣等ヲ詳記シ一通毎ニ番號ヲ付シ且ツ物品ヲ發見シタルトキ被盗者ヲ知リ得ルニ便ナラシムル爲メ(いろは)ノ符號ヲ品名ノ肩ニ記載スヘシ其符號ノ記載方ハ譬ハ甲ノ被盗品ニ(い)ト記スレハ乙ノ被盗品ニ(ろ)ト記シ丙ノ被盗品ニ(は)ト記スルカ如クスヘシ但他ノ署ヘ通知スルモノモ亦同シク本條ノ符號ヲ記スルモノトス

第五條　他ノ署ヨリ通知ヲ受ケ品觸ヲ爲ストキハ其物品ヲ發見シタル時何地ノ被盗品ナルヲ知リ得ルニ便ナラシムル爲メ其符號ノ上ニ盗難地ノ署名ノ一字ヲ記載スヘシ譬ハ山口警察署所轄内ノ被盗品ナルトキハ(山い)ト記シ三田尻警察署所轄内ノ被盗品ナルトキハ(三ろ)ト記スルカ如シ但小郡分署所轄内ノ被盗品ニハ(郡何)ト記シ小月分署ハ(月何)小串分署ハ(串何)室津分署ハ(津何)室積分署ハ(積何)須佐分署ハ(佐何)ト記スヘシ

第六條　第四號ノ番號ハ一ケ年毎ニ之ヲ改メ符號ハ一ケ月毎ニ之ヲ改ムルモノトス若シ符號ノ四十八字ヲ記シ尽タルトキハ片假名ニテ記載スヘシ

第七條　品觸ハ數通ヲ作リ四五組毎ニ回達スヘシ但事務繁忙ナルトキハ一通若クハ二通ヲ作リ回達スルモ妨ケナシ

品觸書式

第何號　　品觸　　何冊

い

一日本外史

川越本何表紙毎冊初葉ニ〔八〕ノ印アリ

ろ

一羽織

表茶色博多織脊ニ一ケ所大内菱ノ縫紋アリ裏水色海氣ニテ唐子遊ヒノ絵アリ

ろ

一懐中時計

番號(二三四五)金側片カラス鐵器械龍頭卷　一個

岩い

一銀瓶　一個

口徑何寸高サ何寸何分丸形ニテ梅ノ樹摸樣アリ蓋ノ裏ハ金ニテ張リ底ニ小判二枚ヲ斜ニ折リテ仕付ケアリ量目何程

赤ヤ

一烟管　一本

小柄櫨ニテ厂首吸口仕付ケタルモノニテ厂首ハ銀吸口ハ金ナリ櫨ハ表赤銅ニテ銅ニテ作リシ猿ト銀ニテ作リシ犬ト戯ルヽノ圖アリ裏ハ四分一ニテヤスリメアリ

以上

右早々寫取ノ上組合中ヘ觸廻シ本書ハ直ニ順達シ周尾ヨリ返却可致候也

年月日

何警察署印

又ハ何警察署

何分署印

古物商頭取

何某殿

何某殿

第二欵　古物商

○法律第十三號（明治二十八年三月二日）

古物商取締法

第一條　古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條　古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ

其ノ旨行政廳ニ届出ヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設クルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

第五條　左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一　古物ノ市場、行商、露店及糶賣

二　刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條　古物商物品ヲ買受ケ若クハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ

若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條　住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條　贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月內ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十一條　古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置証書ヲ交付スヘシ

第十四條　古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十五條　禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限內亦同シ

第十六條　行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條　古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲハ問ス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條　他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十三條ノ場合ニ於テ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二　第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三　禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四　第十五條ニ違犯シタル者

第二十條　第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十二條　營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條　此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セス

第二十五條　明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○內務省令第八號（明治廿八年七月二十六日）

古物商取締法細則

第一條　古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣東京ヲ除ク以下之ニ倣フ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

呉服商　金物商　袋物商　小間物商
籠甲商　時計商　飾商　書籍商
其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條　二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノヽ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ屆出ヘシ

第四條　營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ屆出ヘシ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ屆出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ屆出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ屆出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條　古物商取締法第三條第四條第二項及第二條ノ屆出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ屆出ヲ要スル物品ヲ其買受タ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以內ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其品目屆出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ屆出ルハ相續ノ日ヨリ十日以內ニ於テスヘシ

第六條　帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以內ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ屆出ヘシ

第八條　古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屋又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條　古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　行商露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條　古物ノ糶賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時竝場所ヲ行政廳ニ屆出ヘシ

第十二條　古物商ハ露店途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條　古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條　第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　此細則ニ規定シタルモノヽ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○縣令第三十九號（明治二十八年八月二十一日）

古物商取締法仝細則施行規則

第一條　古物商取締法仝細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ所轄警察署長又ハ分署長ニ委任ス

但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此限ニアラス

第二條　古物商營業願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　住所氏名年齢

二　營業物品ノ種類

三　氏名ヲ改稱シタルモノハ舊氏名

四　新ニ移轉シタルモノハ前住所及其年月日

五　營業所又ハ店舗ノ所在地

免許ヲ受ケタル後前各項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ其第二項營業ノ物品ヲ減少シタルトキハ十日内ニ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第三條　古物商ハ左記雛形ニ倣ヒ標札ヲ其營業所又ハ店舗ニ掲出スヘシ

竪曲尺貳尺　横曲尺五寸

一古道具
一古　着
一何　々　古　物　商
一、、、、　住所氏名(營業所又ハ店舗)

第四條　古物商ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

一　物品買入讓受明細帳
二　物品賣拂讓渡明細帳

第五條　前條ノ帳簿ハ使用以前ニ紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　物品及帳簿ニハ仝一ノ番號ヲ付スヘシ

第七條　物品買入讓受明細帳ニハ物品ヲ買取リ若クハ交換シ又ハ讓受ヲナシタルトキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　物品ノ種類員數品質摸樣徽章番號及交換ニ係ルトキハ給付シタル交換物ノ番號
二　價格
三　賣主讓渡主又ハ交換者ノ住所氏名
四　買受讓受又ハ交換ノ年月日
五　取締法第七條但書ノ場合ニ於テハ其旨ヲ記入シ證人ヲ立テタルトキハ其證印ヲ取ルカ又ハ其證ヲ徵スヘシ
六　自用ノ物品又ハ寄藏ヲ受ケタル物品ヲ賣品ニ供スルトキハ第一項第三項第四項ニ準據スヘシ

第八條　物品賣拂讓渡帳ニハ賣却若クハ交換シ又ハ讓渡ヲナシタルトキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　物品ノ種類員數及之ニ屬スル物品買入讓受帳ノ番號
賣品ヲ自用ニ供シ若クハ無償ニテ他人ニ讓與シタルトキ亦同シ
二　前項第一ノ場合ニ於テハ價格第二ノ場合ニ於テハ其事由
三　賣拂讓渡又ハ交換ノ年月日

四　買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ其住所氏名

五　刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ其買主讓受主ノ住所氏名年齢

六　物品ヲ解放シ又ハ潰金等ニ爲ストキハ其年月日並ニ解放又ハ潰ト記載スヘシ

第九條　所轄警察署又ハ分署ヨリ品觸レノ廻達ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ寫取リ順次編綴シ其廻達書ニハ到達ノ月日時ヲ記入シ認印ノ上即時順達シ周尾ナルトキハ警察署又ハ分署ニ返納スヘシ

第十條　品觸寫綴ハ最寄營業者三名以下申合セ之ヲ共用スルコトヲ得此場合ニ於テハ豫シメ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

第十一條　營業所又ハ店舗ニ管理人ヲ置クトキ又ハ行商露店鑑札ヲ受ケントスルトキハ本則第二條ニ準據シ屆出又ハ願出ヘシ

第十二條　露店鑑札ハ店頭ニ掲出スヘシ

第十三條　行商又ハ露店鑑札面ニ異動ヲ生シ又ハ亡失若クハ毀損シタルトキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

廢業又ハ死亡シタル場合ニ於テハ營業主又ハ相續人ヨリ鑑札ヲ返納スヘシ

本條ノ屆出若クハ返納ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條　本則第二條末項第四條第五條第六條第七條第二項第四項第五項第六項及第八條第十一條第十三條ニ違背シタル者又ハ第九條ノ廻達ヲ怠リタル者及第十條ノ認可ヲ受ケサル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ據リ處分セラルヘシ

附　則

第十五條　明治十七年一月本縣甲第十八號布達古物商取締細則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條　從來ノ居商ニシテ引續キ營業セントスルモノハ更ニ免許ヲ受クルヲ要セス明治二十八年九月一日迄ニ屆出ヘシ

第十七條　從來ノ行商ニシテ引續キ營業セントスルモノハ更ニ鑑札ヲ受クルヲ要セス明治二十八年九月一日迄ニ屆出從前ノ行商鑑札ヲ以テ行商ヲナシ又ハ露店ヲ出スコトヲ得

第十八條　從來ノ古物商營業者ハ明治二十八年十二月三十一日迄從前使用ノ帳簿ヲ襲用スルコトヲ得

○訓警甲第三號（明治廿八年八月卅日）

古物商取締法仝細則施行規則取扱手續

第一條　營業ニ關スル願屆ヲ受ケタルトキハ古物商取締法仝細則幷施行規則ニ照シ處理スヘシ

第二條　營業免許ヲ願出タルトキハ取締法第十五條及手續第三條ニ抵觸ノ有無ヲ調査シタル後許否スヘシ其管理人ニ付テモ亦同シ

第三條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ニハ古物商營業又ハ管理人タルヲ許サス

一　未成年者、白痴、瘋癲者ニシテ營業上ノ責任ヲ負擔スル父母、戸主、又ハ後見人ナキ者

二　營業停止ノ處分ヲ受ケ未タ解停セサルニ廢業ヲ屆出而シテ後新ニ營業免許ヲ願出タル者

三　强窃盜、詐欺取財又ハ財物ニ關スル罪ヲ犯シ被監視中ノ者

第四條　警察署又ハ分署ニハ左ノ臺帳ヲ備ヘ置キ免許ヲ爲シタル都度登記シ廢業又ハ營業ノ禁停止其他異動ヲ生シタル毎ニ加除訂正スヘシ

一　古物商臺帳

二　古物商禁停止人名臺帳

第五條　前條臺帳ノ樣式左ノ如シ、

臺帳ハイロハ別トナシ且見出シヲ附スヘシ

古物商臺帳　（用紙美濃紙）

指令番號	免許年月日	廢業年月日	營業所又ハ店舗	營業種類	營業者又ハ管理人後見人住所	氏名	備考

イ　ロ　ハ

一　廢業ノ年月日ハ朱ヲ以テ記入スヘシ

二　住所移轉改氏名又ハ營業禁停止等ハ備考欄内ニ記入スヘシ

古物商禁停止人名台帳　（用紙美濃紙）

禁停止年月日	禁停止ノ別	停止ノ期間又ハ解禁年月日	營業者住所	氏名	處分シタル廳府縣名

イ　ロ　ハ

一　禁停止ノ人名ハ縣内ニ係ル者ハ縣報又ハ警察公報其他ハ官報ニ依リ

記入スヘシ

第六條　營業ノ禁停止又ハ解禁停スヘキモノト認ムルトキハ其事情ヲ具シテ申報スヘシ

第七條　取締法第七條但書ニ依リ認可ヲ請フトキハ其物品ノ出所ヲ取糺シ不正品ニ非ラスト認ムルトキハ左ノ書式ニ準據シ認可證ヲ交付スヘシ

一　何品　何個

但目印番號何々

一　何品　何枚

但縞柄摸樣損所何々

右何所何某ヨリ買入(交換)讓受)ルコトヲ認可ス

年號月日

何警察署長分署長

官　氏　名　印

第八條　品觸ハ所轄内ヲ適宜ニ區畫シテ發送シ廻達上遲延ナキヲ期スヘシ

第九條　施行規則第十三條ニ規定セル古物行商又ハ露店鑑札樣式左ノ如シ

(木製)

表

古物行商(露)店鑑札

住所　氏　名

(何所古物商何某雇人又ハ家族)

氏　名

第何號

一古道具

一何々

年月日

山口縣何警察(分)署印

横三寸　縱五寸

第十條　取締法第八條第二項同第十三條同第十七條ノ處分ハ警察署長又ハ分署長ニ於テ自ラ之ヲ執行スヘシ若シ止ムヲ得ザル場合ハ部下署僚又ハ巡査ニ委任シテ處分セシムベシ

前項ノ處分ヲ了リタルトキハ其品目及事由ヲ具シテ報告スベシ

第十一條　取締法第八條第二項ニ依リ官沒ノ處分ヲ爲ストキハ第一號書式ニ準據シ官沒處分書ヲ交付スベシ

取締法第十七條ニ依リ物品ヲ徵收シタルトキハ第二號書式甲號徵收書ヲ交付シ乙號以下ハ夫々處分ノ上保存スベシ

第一號

第二號　書式

甲號

物品徵收書

一何品　何個

但目印番號何々

何警察署長分署長

官　氏　名　印

住所職業　氏　名

官沒處分書

一何品　何枚

一何品　何個

右傳染病毒ニ汚染シタル物品ト認メ消毒ヲ命シタルニ拘ハラス其命令ニ從ハサルヲ以テ明治廿八年法律第十三號古物商取締法第八條第二項ニ據リ官沒スルモノ也

年號月日

何警察署長分署長

官　氏　名　印

住所職業　氏　名

乙號

領收證

一何品　何個

但目印番號何々

一何品　何枚

一何品　何枚

但縞柄模樣損所何々

右何所何某ヨリ買受タ(又ハ何某ト交換シ)タル物品ハ何所何某ノ遺失物(賍物)ニ係ルヲ以テ明治廿八年法律第十三號古物商取締法第十七條ニ據リ被害者ヘ還付ノ爲メ徵收スルモノ也

年號月日

何警察署長分署長

官　氏　名　印

署印

割印

署長……又ハ代務者印

割印

但縞柄摸樣損所何々

右年月日何所ニ於テ遺失シ(又ハ盜難ニ罹リ)タル物品ニ有之候處今般何所古物商何某カ買受ケ(又ハ交換シ)タルヿ發覺シ徴收ノ上御還付相成正ニ領收候也

年號月日　　住所　氏　名　印

警察署長分署長宛

丙號

官沒處分書

一何品　何枚

但縞柄摸樣損所何々

一何品　何個

但目印番號何々

右ハ何所古物商何某カ何所何某ヨリ買受ケ(又ハ交換)タル物品ニテ遺失物(又ハ賍物)ニ係ルヲ以テ何年何月何日徴收シタル所其被害者知レサルニ付キ官沒スルモノ也

年號月日　　何警察署長分署長　官　氏　名　印

(甲號徴收書ノ裏面ニハ左ノ事項ヲ登記シ置クヘシ)

表書物品ニシテ若シ被害者知レサルトキハ本日ヨリ二個年ノ後官沒ス

前項ノ處分ヲ爲スニ當リ別段通報ノ手續ヲ爲サス

年號月日　　何警察署長分署長　官　氏　名　印

第十二條　取締法第八條ニ依リ官沒シタルトキハ其物品ハ品質其他ノ事情ニ依リ消毒又ハ燒却シ仝第十七條ニ依リ官沒シタルトキハ遺失物及賊捨置品出納規程ニ準據シ處置スヘシ

第十三條　取締法第十三條ノ領置證書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

領置證書

一何品　何枚

但縞柄摸樣損所何々

一何品　何個

但目印番號何々

右物品ハ犯罪ノ嫌疑アルヲ以テ(又ハ遺失物若ハ傳染病毒ニ汚染シタルモノト認ムルヲ以テ明治廿八年法律第十三號古物商取締法第十三條ニ依リ領置スルモノ也

年號月日　　何警察署長分署長

官　氏　名　印

第十四條　前條ノ領置ヲ爲シタルトキハ直ニ取調ヲ爲シ若シ犯罪ニ關係アルモノト認ムルトキハ刑事訴追ノ手續ヲ爲レ遺失物又ハ傳染病毒ニ汚染シタルモノト認ムルトキハ取締法第八條仝第十七條ニ依リ處分シ然ラサルモノハ速ニ本人ニ還付スヘシ但還付シタルトキハ前ニ交付シタル領置證書ヲ徵スヘシ

第十五條　取締法第十二條ニ依リ帳簿ノ廢棄ヲ願出タルトキハ左ノ程度ニ依リ許否スヘシ

一　普通ノ場合ハ記載ヲ終リタル後三年以上五年以內

二　特別ノ事情アリテ五年以上保存ノ必要アルトキハ事由ヲ具シ警部長ニ稟議スベシ

第十六條　帳簿ノ毀損又ハ亡失ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其疏明ノ實否ヲ精査スヘシ

○示警甲第二十二號(明治二十九年四月十一日)

古物市場ノ開廢業等ニ關スル左記之事項ハ徵稅上必要有之候趣ニ付其都度所轄郡市町村長ヘ通知方取計ラハルヘシ

一　新タニ許可セントキハ其年月日定時又ハ臨時ニ開設ノ區別臨時ニ開設ノモノハ開場日數共設置ノ場所營業人ノ住所氏名

二　移轉ノ屆出ヲナシタルトキハ其年月日及移轉場所

三　定時ニ開設ノモノニシテ廢業ノ屆出ヲナシタルトキハ其年月日

第三欵　宿屋

○縣令第百十九號（明治二十年十月十九日）

宿屋取締規則

第一章　通則

第一條　宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條　宿屋營業ニ關スル願屆ハ頭取ノ加印ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ差出スヘシ

第三條　宿屋營業ヲ爲サントスルモノハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖ヲ以テ願出免許證ヲ受クヘシ其間取坪數ヲ變更增減シタルトキハ圖面ヲ以テ屆出認可ヲ受クヘシ

第四條　同一ノ警察署又ハ分署管内ニ轉居シテ營業セントスルモノハ第三條ニ示シタル明細圖ヲ以テ屆出認可ヲ受クヘシ

第五條　改氏名廢業又ハ他警察署分署管轄内ニ轉居シタルトキハ其旨免許ヲ受ケタル警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ但未丁年者ノ後見人交迭ノトキ亦仝シ

第六條　左ノ各項ニ觸ルヽモノハ免許ヲ與ヘス

一　未丁年者ニシテ後見人ナキモノ

二　白痴瘋癲者

三　强窃詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四　風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認ムルモノ

但三項四項ノ場合ニ於テ悛改ノ情特ニ著シキモノト認ムルトキハ免許ヲ與フルコトヲ得

第七條　宿屋營業者ハ一家屋内ニ於テ貸席營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第八條　宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代ユヘシ

第九條　宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス

第十條　宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル樣注意スヘシ

第十一條　宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ入ラシ

ムヘカラス

第十二條　宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十三條　宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡査派出所若クハ巡行ノ巡査ニ届出ヘシ

但時宜ニ依リ一時宿泊人ヲ止メ置クヘシ

第十四條　宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押収又ハ受領スヘカラス若シ之ヲ受領セントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出指揮ヲ受クヘシ

第十五條　宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メサキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十六條　宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ掲示スヘシ

第十七條　宿屋營業者ハ所轄警察署又ハ分署ノ區劃ニ從ヒ組合ヲ設ケ頭取ヲ公撰シ届出ヘシ

但頭取其任ニ適セサルト認ムルトキハ改撰ヲ命スルヿアルヘシ

第十八條　第六條第四項但書ニ依リ免許ヲ得タル者ハ頭取タルヿヲ得ス

第十九條　組合ニ關スル費用ハ營業者ニ於テ負擔シ組合ニ入ラサル者ハ營業ヲナスヿヲ得ス

第二十條　頭取ハ左項ノ事務ヲ取扱フヘシ

一　組合營業者ノ願届ニ加印スルヿ

二　營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合ヘ通知スルヿ

三　營業者名簿ヲ製シ其增減異動ヲ加除記入スルヿ

四　組合ニ關スル費用ノ収支決算及ヒ報告ヲナスヿ

五　頭取撰擧ニ關スルヿ

第二章　旅人宿

第二十一條　旅人宿ハ流船宿船トモ仝シ一泊ノ賄料ヲ得テ行旅人ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ

第廿二條　旅人宿ハ赤間關山口市街ニ於テハ十五坪以上其他ノ市街ニ於テハ十坪以上ノ客室アル家屋ニ限ルヘシ

第廿三條　客室ハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣ヲ流通セシムヘシ

第廿四條　客室每ニ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸棚ヲ設クヘシ

但他ニ客ノ所有品ヲ藏置スヘキ備品アリテ本文ノ設備ヲナサヽルトキ

ハ屆出認可ヲ受クヘシ

第廿五條　便所ハ日々清潔ニ掃除スヘシ

第廿六條　客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ降ル可ラス

但同行者ハ勿論祭典等ノ節ハ此限ニアラス

第廿七條　同行者ニアラサル宿泊人ハ双方ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ猥リニ同室ニ宿泊セシムヘカラス且婦女ハ同行者ヲ除クノ外男子ト同室セシムヘカラス

第廿八條　正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス

第廿九條　營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ午後十二時迄ニ其後ノ分ハ翌日午前九時迄ニ所轄警察署又ハ分署若クハ巡査派出所巡査駐在所ニ屆出ヘシ

但本文ノ署所ニ遠隔ノ地ニ於テハ三日毎ニ取纒メ屆出ルコトヲ得

宿屋人名簿書式　用紙寸法適宜

番號	氏名	族籍	住所	年齢	職業	前夜宿泊所	行先地	到着月日時刻	出發月日時刻	相貌特徴

（用紙ハ堅牢ナル半紙ニシテ該紙ノ右端ヲ大約一寸余ヲ除キ一人毎ニ一葉又ハ半葉ニ記スヘシ）

第三章　下宿

第三十條　下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料坐敷料等ヲ約定シテ他人ヲ寄寓セシメ之ヲ營業トナスモノヲ云フ

第三十一條　下宿屋ハ赤間關及ヒ山口市街ニ於テハ十坪以上其他ニ於テハ五坪以上ノ客室アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第三十二條　下宿屋營業者ハ下宿人投宿後廿四時間内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍氏名年齢並ニ下宿ノ事由ヲ記シタル屆書二通ヲ所轄警察署分署又ハ巡査派出所駐在所ニ差出シ一通ニ其檢印ヲ受ケ保存スヘシ

第廿三條　第廿三條第廿四條第廿五條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第廿四條　下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第廿五條　下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨所轄警察署分署又ハ巡査派出所ニ屆出ヘシ

第四章　木賃宿

第廿六條　木賃宿營業ハ市街ニ於テハ場所ヲ定メ許可スヘシ

但其區域ハ別ニ縣令ヲ以テ之ヲ定ム

第廿七條　宿泊人滯在中外泊シタルモノアルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第廿八條　宿泊人屆出方ハ第廿九條ノ例ニ從フ可シ

第五章　處罰

第廿九條　第三條第九條第十二條第十三條第十四條第十五條第二十九條第卅二條第三十四條第三十五條第卅七條第卅八條ニ違背シタル者及ヒ第八條第十六條第廿四條第二拾五條ニ違背シ官ノ督促ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十七條ニ依リ處分ス

附則

一從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セントスル者ハ明治廿一年三月末日迄ニ此規則ニ從ヒ更ニ願出ヘシ

一免許ヲ得タル旅人宿又ハ下宿屋ニシテ客室其他ノ構造本則ニ違フ者ハ明治廿一年三月末日迄ニ改造スヘシ

一前二項ニ違フ者ハ免許ノ効ヲ失フヘシ

一左ニ掲載スル事項ハ當分ノ内施行セス

一組合費用ニ關スル事項

一營業者名簿ニ關スル事項

○警達規第五十六號（明治二十年十一月廿五日本縣達）

宿屋取締規則施行手續

第一條　營業ヲ願出タルトキハ各種類ニ應シ客室構造ノ適否ヲ臨檢セシメ且本人ノ身元性質品行等ヲ搜査シ適當ノ者ナルトキハ免許證ヲ付與スヘシ若シ許可スヘカラサル者ト認ムルトキハ其理由ヲ示シテ願書ヲ下戻スヘシ

第二條　構造檢査ハ左項ニ依ルヘシ

一　客室ノ坪數ヲ計算スルニハ客ノ宿泊ニ供セサル坐敷押入床緣側ノ類ヲ除却スルコト

二　便所ハ臭氣ノ客室ニ達セス且掃除ニ不便ナラサル樣構造セシムルコト

三　客室ニハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣ノ流通ヲ便ナラシムルコト

四　客室ノ梯子ハ勾配ヲ緩クシ其幅ハ成ルヘク三尺以上トナサシメ且其摸樣ニ依リ手摺ヲ備ヘ又ハ裏板ヲ釘付セシムル等危險ナカラシムルコト

五　客室ニハ客ノ所有品ヲ堅固ニ藏置スヘキ設備ヲナサシムルコト

六　木賃宿ハ前各項ノ限リニアラサルモ三項三項ニ依リ適宜斟酌調査スルコト

第三條　身元調査ハ左項ニ依ルヘシ

一　性質品行等ハ其居住地ニ就キ搜査セシムルコト

二　前科ノ疑アル者ハ相當取調ヲナスコト

三　營業者タルノ資格ナキ者ニシテ他人ノ名義ヲ借リ營業ヲナスヤ否ヲ精査スルコト

四　未丁年者ノ後見人ハ營業者ト同シク身元調査ヲナスコト

第四條　營業者ノ開廢業ハ台帳ニ記入シ且之ヲ月綴ニシテ郡區役所ニ通知スヘシ改氏名轉居亦同シ

第五條　廢業其他ニ依リ免許證ヲ還納セシトキハ其番號ハ欠號トナシ欠號錄ニ記入シ置キ新タニ免許ヲ請フ者アル場合ニ於テハ順次之ヲ付與シ其番號ハ欠號錄ヨリ删除スヘシ

第六條　改氏名轉居遺失等ニ依リ免許證ノ書換又ハ再渡ニハ總テ舊番號ヲ

用ユヘシ

第七條　免許證雛形及其料紙請求手續ハ人力車營業ノ例ニ依ルヘシ

第八條　營業者本則第六條ノ各項ニ抵觸シ又ハ抵觸セシコトヲ發覺セルトキハ速ニ其事情ヲ具申シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條　組合ハ管内ヲ一組トナスモ又ハ數組トナスモ妨ケナシト雖モ成ルヘク廣濶ナルヲ要スヘク且其名稱ハ地名ヲ冠セシムヘシ

第十條　客室ニ掲示スヘキ宿泊料等ハ實際弊害ナシト認ムルニ於テハ掲示セサルコトアルモ適宜斟酌スヘシ但木賃宿ハ此限ニアラス

第十一條　宿泊人名簿及届書ニハ總テ族籍氏名其他ヲ記載スルノ例ナルモ官吏軍人等ハ左項ニ依リ記入セシムヘシ

一　官吏ハ其官職氏名

二　軍人軍屬ハ其隊號及ヒ氏名但行軍ノ際ハ其人員ヲ記スヘシ

第十二條　宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ノ所有品受領ヲ届出タル場合ニ於テハ双方ノ事情ヲ取糾シ止ムヲ得サル事實ニシテ不都合ナシト認ムルトキハ之ヲ認可スヘシ

第十三條　下宿人ノ族籍氏名ハ左ノ木札ヲ以テ掲出セシムヘシ

下宿　何府縣何族平民　氏名

竪五寸
横二寸

第十四條　通常旅舍檢ヲナスニ及ハスト雖モ取締ヲ必要トスルトキハ之ヲ執行シ且時機ニ依リ宿泊人ニ就キ其氏名及宿泊ノ理由ヲ取糾スコトヲ得

第十五條　宿屋ニハ時々巡査ヲ派シ客室其他ノ構造体裁及ヒ便所ノ掃除等ヲ視察セシメ併セテ規則ヲ遵守スルヤ否ヲ注意セシムヘシ

營業者名簿雛形

第何號	組名	營業種類	旅人宿又ハ下宿屋	何之誰
免許證附與月日	年月日㊞（主任印）	年齡	何年何月何日生	
身分	何族（平民）戸主父ハ何々	本籍	何府縣國郡區町村番地	
住所	何郡區町村番屋敷	屋號	何々又ハ何々屋	
客間數	下幾間二階幾間	計	幾間定員	何人
室坪數	下何坪二階何坪	計	何坪	
免許證返納	年月日何々ニ付返納㊞（主任印）	事故	年月日免許證書換又ハ所罰等ヲ記ス㊞（主任印）	
客室變更	年月日客室幾間改造ニ付增加ス㊞年月日二階ヲ作リ幾間何坪增ス㊞年月日客室幾間ヲ減ス等㊞（主任印）			

後見人	年齢	年月日生	何之誰
原籍	何府縣國郡區町村番地	何族平民	
身分		住所	郡區町村番屋敷
營業人ト關係	親族其他ノ續柄緣因	事故	年月日退任屆出等(主任印)

○地第千三百八十四號(明治二十年十一月廿二日警部長訓示)

宿屋取締規則中下宿屋トハ收益ノ目的ヲ以テ一ケ月ノ賄料坐敷料等ヲ約定シテ他人ヲ寄寓セシメ之ニ依テ其生計ヲ營ム者ヲ指稱スル儀ナレハ收益ノ目的ニアラスシテ賄料坐敷料等ヲ約定シテ親族朋友知人等身元慥ナル者ノ依頼ニ應シ情誼上同居寄寓セシムル者ハ包含セサル儀ト心得ヘシ此旨訓示候也

○地第百三十九號(明治二十一年二月二日警部長達)

今般縣令第十六號ヲ以テ木賃宿區域定メラレ候ニ付テハ右區畫ハ圖面ヲ以テ其署ヨリ掲示スヘシ此段相達候也

○縣令第十六號(明治二十一年二月五日)

明治廿年十月縣令第百十九號宿屋取締規則第三十五條ニ依リ木賃宿營業區域ヲ左之通相定ム

但其區畫ハ所轄警察署ヨリ圖面ヲ以テ之ヲ掲示スヘシ

玖珂郡岩國市街

川西村ノ内字知光院谷ヨリ字疱瘡柱マテノ間

吉敷郡山口市街

石觀音町　道祖町

赤間關區赤間關市街

關後地村ノ内字園田

茶山町　長崎町

阿武郡萩市街

濱崎新町平安古町一丁目ヨリ二丁目マテノ間

○地第五百號(明治廿一年四月十八日警部長訓示)

宿屋規則執行ニ付キ其坪數及摸樣等取調候ニハ通常巡査ニ命シ取調ヲ爲サシムル趣キ有之右取調上充分ナラサル所アリ他日改造若クハ廢業等ヲ命スルニ至リ候テハ容易ナラサル儀ニ付キ右ハ署長又ハ次席警部若クハ警部補代理巡査ヲ以テ取調ヲ爲サシム可シ此旨訓示候事

○縣令第七十九號(明治廿二年十二月五日)

物品問屋營業者ニシテ荷主水夫等ヲ止宿セシムルトキハ宿屋取締規則ニ據リ屆出ヘシ

○示警第四十九號（明治廿三年七月五日）

死体ヲ器物若クハ毛布織物等ニ包藏馬車人力車ニ乘載シ又ハ之レヲ擁護シテ旅店ニ止宿セントスルモノアルトキハ總テ相互ノ示談ニ任スヘシ

但本文ニ抵觸スル從前指令ハ取消ス

第四欵　雇人受宿

○甲第六十六號（明治十四年九月十九日本縣達）

雇人受宿取締規則

第一條　新ニ雇人請宿營業ヲナスモノハ身元請人組合取締及ヒ其町村戸長ノ加印ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ

但廢業死亡又ハ移轉ノ節ハ本文ニ準シ屆出ヘシ

第二條　請宿身元請人ハ當縣在住ノモノニシテ五拾圓以上ノ資力ヲ有スルモノニ限ルヘシ

第三條　該營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

○雇人請宿姓名　竪三尺　横七寸

第四條　該營業者ハ一町村若シクハ數町村毎ニ組合ヲ定メ仲間中ニ於テ頭取一名又ハ二名ヲ撰定シ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ

第五條　頭取ハ所轄警察署又ハ分署ノ指揮ヲ受ケ組内ノ取締ヲナシ且ツ犯罪人人相書等ヲ受クレハ速ニ組内ヘ廻達スヘシ

第六條　雇人口入ヲ爲スニハ左ノ三項ニ依リ其取扱ヲナスヘシ

一　雇人ハ男女ヲ論セス身元慥ナルモノニ限ルコト

二　雇人ハ必ス身元慥ナル下請人ヲ立ツルコト

三　身元引請人ハ必ス當縣居住ノモノニ限ルコト

第七條　該營業者ハ雇人人名簿ヲ製シ該簿ニ左ノ事項ヲ詳記シ置キ警察上取調ノ用ニ供スヘシ

一　雇人ノ生所住所氏名年齢身分職業

二　人相及別徴（別徴トハ黒子痘痕又ハ刀傷文身等總テ別段ナル徴痕アル者ノ類ヲ云フ）

三　雇人ト爲リタル年月日及被雇期限並ニ給金高

四　被雇中ニ係ル著ルシキ事項（死亡犯罪逃走ノ類ヲ云フ）

第八條　雇人タラント欲スルモノ若シ犯罪脱籍其他不審ノ所業アリト認ムルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署若クハ巡行ノ巡査ニ密告スヘシ

第九條　雇人ノ口入ヲ爲スニハ雇主ト受宿並ニ雇人トノ間ニ於テ後日紛擾ナキ樣詳細ナル契約ヲ爲シ置クヘシ

第十條　該營業者ハ豫テ雇人世話料ヲ定メ置キ該世話料ノ外種々ノ名義ヲ以テ雇主被雇人ヨリ出錢ヲナサシムルコトヲ禁ス

但世話料高ハ豫メ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出置クヘシ

第十一條　雇人ト申合セ或ハ之ヲ欺キ屢々雇主ヲ轉換セシメ世話料ヲ貪ル等ノ所業ヲナスヘカラス

第十二條　雇人タラント欲スルモノト雖モ止宿ヲナサシムルトキハ旅人宿取締規則ヲ遵守スヘシ

第五欵　仲次

○縣令第三十五號（明治廿五年五月五日）

汽船荷客仲次營業取締規則

第一條　汽船ニ搭載シ又ハ陸揚スル荷客ノ仲次營業ヲ爲サントスル者ハ商店ノ所在及營業者ノ族籍氏名年齢ヲ記シ届出鑑札ヲ受クヘシ

未成年白痴瘋癲者營業ヲ爲サントスルトキハ後見人ヨリ届出ヘシ

第二條　支店ヲ置クトキハ代務者ヲ定メ其族籍氏名年齢ヲ記シ届出鑑札ヲ受ケ之ニ渡シ置クヘシ

未成年白痴瘋癲者ハ代務者ト爲スコトヲ得ス

第三條　商店外ニ於テ家族雇人ヲシテ荷客取扱ノ業務ヲ辨セシメントスルモノハ其族籍氏名年齢ヲ記シ届出鑑札ヲ受ケ之ニ渡シ置クヘシ

第四條　商店外ニ於テ業務ヲ取扱フモノハ顯ニ鑑札ヲ携帶スヘシ

第五條　鑑札ハ他人ニ使用セシムヘカラス

第六條　夜間荷客ヲ送迎スルモノハ業名並ニ營業者ノ氏名又ハ通稱ヲ記シタル提燈ヲ携帶スヘシ

第七條　荷客ノ運賃ハ商店内見易キ場所ニ掲クヘシ

第八條　乘客荷主ニ對シ荷客運賃定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第九條　乘船切符ハ仮切符ヲ發行シ又ハ他船ノ切符ヲ代用スヘカラス

第十條　乘船ヲ勸誘スル爲メ客引人ヲ出スヘカラス通行人ヲ呼止メ又ハ船名若クハ出港時刻ヲ詐リ其他不正ノ手段ヲ以テ乘客ヲ勸誘スヘカラス

第十一條　上陸者ニ對シテハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ指定シタル場所以外ノ地ニ出迎ヲ爲スヘカラス但特ニ警察官吏ノ承認ヲ得タル場合ハ此限ニアラス

第十二條　鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ鑑札ヲ亡失毀損シタルトキハ速ニ書換ヲ請フヘシ

第十三條　營業者廢業シタルトキ又ハ代務者家族雇人ノ荷客取扱ヲ罷メタルトキハ其鑑札ヲ添ヘ速ニ届出ツヘシ

營業者死亡シタルトキハ相續者又ハ最近ノ親族ヨリ鑑札ヲ添ヘ届出ヘシ

第十四條　營業者同盟規約ヲ設クルトキハ規約書ヲ添ヘ届出ヘシ變更スルトキ亦同シ

第十五條　本則ノ届書ハ總テ商店所在地所轄ノ警察署又ハ分署ヘ差出スヘシ

第十六條　本則第一條第二條前項第三條第五條第八條第九條第十條第十一條ニ違フモノ又ハ第四條第六條第七條ニ違ヒ官ノ督促ヲ受ケ尚之ヲ遵守セサルモノハ刑法第四百二十七條ニ依リ處罰セラルヘシ

○示警第五十號（明治廿五年五月廿日）

汽船荷客仲次營業取締規則取扱手續

第一條　本則第一條第二條第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其届書ヲ調査シ第一號雛形ニ準シ相當ノ鑑札ヲ付與スヘシ

第二條　前條營業者ニ鑑札ヲ下付シタルトキハ第二號樣式ノ臺帳ヲ製シ之ヲ記入スヘシ

第三條　本則第四條第六條第七條ノ規定ヲ遵奉セサルモノアルトキハ督促シテ之レニ據ラシムヘシ

第四條　本則第十一條營業者出迎ノ場所ヲ指定シタルトキハ港灣ノ略圖ニ其ノ所ヲ記入シ警部長ニ報告スヘシ

第五條　上陸者ヲ指名シ特ニ出迎ヲ爲サントスルモノアルトキハ其船舶ニ行カシムルモ妨ケナシ

第六條　本則第十四條同盟規約書ノ届出ヲ受ケタルトキ不都合ノ條項アリ改正セシメントスルトキハ事情ヲ具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第壹號　鑑札雛形（縱貳寸五分横一寸八分用材檜）

警察署分署ノ頭字ヲ冠ス

何警第　號

表

○汽船荷客仲次營業取締鑑札

族籍

（營業人氏名代務者）（家族）（雇人）（族籍）

氏

年　名

齡

裏

○

年　月　日付與

年　月　日書換

警察署分署ノ烙印

第二號　臺帳樣式（用紙美濃紙）

仲次營業者

族籍　氏　年　名　齡

商店位置

支店位置

後見人住所氏名

鑑札番號

鑑札下付年月日

鑑札書換年月日

廢業年月日

業務種別	氏名	族籍	年齢	鑑札番號	鑑札下附年月日	鑑札書換年月日	鑑札返納年月日
代務者							
荷客取扱者							

備考　何會社ノ船舶ヲ取扱フ等ハ此欄内ニ記載スルヲ要ス

第六欵　湯屋

○縣令第四十九號（明治二十年三月三十日）

湯屋取締規則

第一條　湯屋（洗湯藥湯）營業ヲナサントスル者ハ願書ニ戸長ノ奥印ヲ受ケ浴場及下水溝渠構造ノ圖面並ニ隣接又ハ下水溝渠等ニ關係アル地主家主ノ承諾證ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ差出シ免許鑑札ヲ受クヘシ

但藥湯營業者ハ出願前賣藥規則ニ依リ免許ヲ受ケ鑑札寫ヲ添ヘ差出ス

ヘシ

第二條　廢業シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヲ鑑札ヲ亡失スルカ又ハ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ書替又ハ再渡ヲ請フヘシ

第三條　湯屋營業者ハ便宜組合ヲ設ケ頭取一人乃至二人ヲ撰擧シ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第四條　組合頭取ハ營業上ニ係ル諸願伺ニ連署シ又ハ之ニ關スル諸達類ヲ組合中ニ示達スヘシ

第五條　湯屋構造ハ左項ニ遵フヘシ

一　浴場脱衣場ニハ男女ノ區域ヲ爲スヘキヿ

二　前項ノ區域ハ見隱ヲナシ且外面ヨリ見透サヽル樣スヘキヿ

三　脱衣場ニハ堅固ニ締リアル戸柵ヲ備フルヿ

四　溝渠ハ下水溝渠構造規則ニ據ルヘキヿ

五　火竈及煙筒ハ不燃質物ヲ用フルヿ

第六條　湯屋ハ茅葺竹木葺等可燃質ヲ用ユヘカラス

第七條　浴場其他落成セシトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヲ檢査ヲ受クタル後ニアラサレハ營業ヲ許サス

但構造ノ模樣ヲ變更シタルトキ亦同シ

第八條　浴場内外及溝渠ハ時々清潔ニ掃除スヘシ

第九條　煙筒ハ毎月二度以上掃除スヘシ

第十條　浴湯ハ毎日取換ヘシ

第十一條　湯場ニハ上リ湯ヲ設クヘシ

第十二條　浴客ハ男女ノ區別ニ從ヒ混浴セシムヘカラス

第十三條　入浴ハ夜間十二時限トス

但烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラス休業スヘシ

第十四條　左ニ掲載スル者ハ入湯ヲ謝絶スヘシ

一　忌避スヘキ惡症患者

二　乱醉者

三　看護ヲ要スヘキ幼老及病人ニシテ看護スヘキモノナキモノ

第十五條　藥湯ハ配劑及其効能ヲ見易キ所ニ掲示スヘシ

第十六條　客ノ衣類其他ノ物品紛失或ハ盜難ニ係リタルトキハ所有主連署ノ上直ニ警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第十七條　遺留品アリタルトキハ七日以内ニ警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十八條　此規則第一條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

一此規則中第三條第四條第五條第二第三第四第五ノ各項第六條ハ當分ノ内岩國、柳井、德山、三田尻、宮市、山口、舟木、豐浦、赤間關、萩ノ各市街及之ニ接續ノ町村ノ外之ヲ施行セス

一從前ノ營業者ハ來ル四月末日迄ニ更ニ願出ヘシ

一從前ノ洗湯藥湯ニシテ浴場其他ノ構造規則ニ觸レタルモノハ明治廿一年三月末日限リ改造スヘシ

○警達規第廿二號（明治二十年四月八日）（本縣達）

湯屋營業免許手續

第一條　湯屋營業願出タルトキハ一件書類ヲ調査シ第一號ノ臺帳ヘ書式ニ準シ其氏名等夫々記入シ第二號書式ニ準シ免許鑑札ヲ下付スヘシ

第二條　廢業屆出ルカ又ハ鑑札書替若クハ再渡願出タルトキハ第一號臺帳書式ニ準シ夫々記入シ其書替又ハ再渡ニ係ルハ鑑札ヲ下付スヘシ

第三條　開廳業及鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ住所氏名免許廢業書替再渡ノ年月日鑑札番號ヲ記シ郡區役所ヘ通知スヘシ

第四條　營業組合ハ一市街ヲ一組トナスヘシ尤モ不得止事故アルトキハ両三組トナスモ妨ケナシ

第五條　營業ヲ免許シタルトキハ湯屋構造方法ヲ篤ト示諭シ落成檢査ノ際改築ヲ要セサル樣構造セシムヘシ

（第一號雛形）（用美濃朱罫紙）

從明治何年何月何日
至明治何年何月何日

湯屋營業免許臺帳

警第何號何組（組合ナキ地ハ記入セス）　山口縣何警察署（分署）

何郡區何町村何番屋敷居住（寄留）　氏名

何年何月何日免許　何年何月何日郡區役所ヘ通知

何年何月何日何々ニ付書替　何年何月何日郡區役所ヘ通知

何年何月何日廢業ニ付鑑札遺納何年何月何日郡區役所ヘ通知

警第何號（廢業ノ節ハ氏名ヲ朱抹ス）

何郡區何町村何番屋敷居住(寄留)
何年何月何日免許 割印 何年何月何日郡區役所ヘ通知
何年何月何日何々ニ付再渡 割印 何年何月何日郡區役所ヘ通知
何年何月何日死亡ニ付鑑札還納何年何月何日郡區役所ヘ通知

(第二號書式)

臺帳ト割印

警察割印

警第何號何組(組合ナキ地ハ記入セス)

住所

氏名

表 洗湯(藥湯)營業免許鑑札

(明治何年何月何日免許)○主任印
(同 何年何月何日書替)○主任印
(同 何年何月何日再渡)○主任印

警察署又ハ分署印

裏

山口縣何警察署(分署)

○地第五百四十一號(明治二十年五月十一日警部長内訓)

湯屋取締規則第十條ニ基キ浴湯ハ毎日取換ユヘキ成規ニ有之所藥湯ニシテ其浴湯ノ汚穢シ健康ヲ害セス且藥効ヲ減殺スルノ虞ナキモノニ限リ便宜換水ノ期限ヲ斟酌スルヿヲ得ル義ト心得ヘシ此段及内訓候也

第七款　鑛泉

○縣令第十九號（明治廿三年三月二日）

鑛泉營業規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但從來營業者モ本則ニ依リ更ニ願出ツ可シ

鑛泉營業規則

第一條　鑛泉浴湯ヲ設置セントスル者ハ當廳ヘ願出テ免許ヲ受ク可シ

第二條　前條出願セントスルトキハ願書ニ溫泉冷泉ヲ區別シ鑛泉凡ツ三升ヲ添ヘ左ノ各項ヲ具ス可シ但他人ノ鑛泉ヲ借受クル者ハ持主ノ連署ヲ要ス

一　鑛泉所在地近傍ノ地形（山川田畑ヲ分ツ）

二　建物全体ノ構造位置及ヒ坪數

三　浴槽ノ箇數及ヒ坪數

四　脫衣場箇所及ヒ坪數

五　休憩場箇所及ヒ坪數（設ナキモノハ記載ヲ要セス）

六　遊步場又ハ遊戲場箇所及ヒ坪數（仝上）

七　汚水溜及ヒ溝渠ノ所在（汚水池ト建物トノ距離ヲ揚ク）

以上圖面ヲ要ス

八　鑛泉ノ容器ハ硝子壜又ハ陶製（新キモノ）ヲ用ヒ砂ヲ以テ丁寧ニ之ヲ振蕩洗滌シ六時間以上鑛泉ヲ盈シ置キ更ニ同泉ニテ洗フ可シ

九　鑛泉ノ汲取方ハ容器ヲ鑛泉中ニ沈メ之ニ盈シ同泉中ニテ緊ク栓塞シ壜中空隙ヲ餘ス可ラス

十　壜口ハ封蠟又ハ松脂ヲ以テ密閉シ其外面ヘ鑛泉ノ溫度（華氏攝氏列氏）何度ト記ス可シ

第三條　營業若クハ營業人ニ異動ヲ生シタルトキハ其旨當廳ヘ屆出ツ可シ

第四條　一町村若クハ數人共同營業ニ係ルモノハ二名以上ノ總代ヲ定メ本則ノ手續ヲ爲サシム可シ

第五條　浴槽ハ切石又ハ堅固ノ板圍トナシ其周邊ハ石ヲ以テ疊ム可シ

第六條　浴場ニハ汚水ヲ流通ス可キ溝渠ヲ設ケ汚水池又ハ河川ニ導ク可シ